

福島県文化財センター白河館
年報 ～令和5年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

年報（令和5年度実績）の発刊によせて

「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001(平成13)年7月にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、本年の7月で23年を経過いたしました。本書は、2023(令和5)年度の管理運営実績を総括するものです。

2023(令和5)年度は、新型コロナウイルス感染症の法令上の分類変更に伴い、感染症対策による社会における制約が緩和される中、当館においても情勢などを鑑みながら、利用人数などの各種制限を徐々に解除して運営を行ってきました。5月には開館以来の入館者数60万人を達成し、これもひとえに皆様の日頃からの御愛顧と様々な御支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、2023(令和5)年度の企画展として、昨年度から会期を延長して開催した「古代ふくしまの開発ー矢吹が原を中心にー」の他に、収蔵資料展「ものづくりに学ぶー^{アンダー}U15の考古学ー」、指定文化財展「会津の中世」、特別展「前田遺跡調査成果展」を開催しました。なかでも「ものづくりに学ぶーU15の考古学ー」は、昨年度に続く学校で歴史学習を始める小中学生へ向けた「U15の考古学」シリーズとして開催し、考古学が解明した、くらしの技術の歴史をわかりやすく解説する展示としました。

昨年度は指定管理第4期5か年の最終年度でもありました。おかげさまで2024(令和6)年度からの指定管理業務につきましても、引き続き我々公益財団法人福島県文化振興財団がその任に当たる者として選定されました。「ふくしまの文化を未来につなぐ」、「ふくしまの文化を広く発信する」という使命のもと館の運営を行ってまいります。職員一同、これからも鋭意努力する所存ですので、皆様には、変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年11月

公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
館長 石川 日出志

目次

第1章 白河館の概要	8
1 白河館の業務	1
2 白河館の沿革	1
3 令和5年度の主な行事	2
4 災害等の影響	2
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	8
1 利用状況	27
1. 利用者数	27
2. 入館者数の内訳と傾向	27
2 維持管理に関する業務	27
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	27
2. 施設・設備等の修繕状況	27
3. 備品・物品管理業務	27
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	28
1. 収蔵資料	28
2. 資料貸し出し	28
3. 写真掲載等承認	28
4. 収蔵品利用	28
5. 資料閲覧	28
4 文化財の活用に関する業務	28
1. 常設展示	28
2. 企画展示	28
3. 講演会等	28
4. 体験学習・イベント	28
5 文化財に関する情報発信	28
1. ホームページによる情報発信	28
2. データベースによる情報提供	28
3. SNSによる情報発信	28
4. まほろん通信の発行	28
6 文化財に関する研修及び技術支援	28
1. 概要	28
2. 研修実施状況	28
3. 技術支援状況	28
7 文化財の活用に関する調査研究	28
1. 文化財の調査	28
2. 体験学習等における試み	28
3. 文化財等に関する情報収集	28
4. 研究紀要	28
9 ボランティア活動の支援	28
1. 募集	28
2. 登録	28
3. 活動内容	28
4. 支援体制	28
10 その他	28
1. 年報の発行	28
2. 運営協議会の開催	28
3. 実習生等の受け入れ	28
4. 被災ミュージアム再興事業	29
5. 他機関との連携	29
第3章 令和5年度の組織と管理運営費	
1 組織	31
2 管理運営費	31
第4章 白河館施設の概要	32
第5章 白河館の条例・規則	
1 福島県文化財センター白河館条例	34
2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	34
白河館の利用案内	35



企画展「ものづくりに学ぶーU15の考古学」



講座「子ども考古学教室」

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管・活用することによって県民の文化の振興に資するため福島県が設置した文化施設であり、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等を対象とする研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団（平成26年4月に現名称に変更）が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日
東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日
震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日
野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日
一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日
開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日
開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

平成31年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和6年3月31日まで）

令和3年10月16日
開館20周年記念式典及び記念企画展開幕式を実施

令和4年6月27日 菊池徹夫館長退任

令和4年6月28日 石川日出志新館長就任

令和5年5月20日 入館者60万人到達

3 令和5年度の主な行事

令和5年1月21日～5月7日
ふくしま歴史探訪展「古代ふくしまの開発一矢吹が原を中心に」

令和5年6月3日～8月20日
収蔵資料展「ものづくりに学ぶーU15の考古学ー」

令和5年9月16日～10月15日

特別展「前田遺跡調査成果展」
令和5年10月28日～12月10日
指定文化財展「会津の中世」
令和6年1月20日～3月10日
ふくしま歴史探訪展「戦後ふくしまの考古学2ー高度経済成長期の発掘調査ー」

4 災害等の影響

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、体験活動全般において段階的に感染症対策を緩和し、勾玉づくりを全日体験可能とするなど、体験活動参加者の利便性を図った。また、常設展示室のクイズコーナーを再開するとともに、団体利用者の勾玉づくり体験を再開した。

また、福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。



入館者60万人到達

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

令和5年度の総利用者数は、42,371名（令和4年度24,825名）で前年度に比べ17,546名の増であった。入館者数は、14,383名（令和4年度11,976名）、館外利用者数は27,988名（令和4年度12,849名）であった。

平成13年の開館以来の累計入館者数は令和5年5月に60万人を突破し、令和6年3月31日現在で613,195名となった。

令和5年度の入館者数については、前年度から2,407名の増加であった。新型コロナウイルス感染症流行に伴う行動制限・自粛が緩み、旅行などの活動が活発化した結果と言える。

小・中学校等の教育機関や生涯学習機関を対象とする「おでかけまほろん」、福島市で開催したまほろん移動展等を含めた館外利用者の総数は、前年度から15,139名と大幅の増加となった。移動展を県立図書館、矢吹町複合施設の2か所で開催したことが大きく、館外利用者としては、過去最高の数字となった。

2. 入館者数の内訳と傾向

(1) 地域別利用状況

居住地域別の入館者数の集計は、県内から

の入館者が11,609名（令和4年度9,764名）で入館者全体の81.5%、県外からの入館者が2,774名（令和4年度2,212名）で入館者全体の18.5%となり、県内外の比率に変化なく増加した。

(2) 年齢別利用状況

幼児、小・中学生、高校生が4,588名（令和4年度3,839名）で、入館者全体の31.9%（令和4年度32.1%）、一般の入館者数は9,795名（令和4年度8,137名）で、入館者全体の68.1%（令和4年度67.9%）となった。これも比率に大きな変化なく、全体的に増加した形となる。

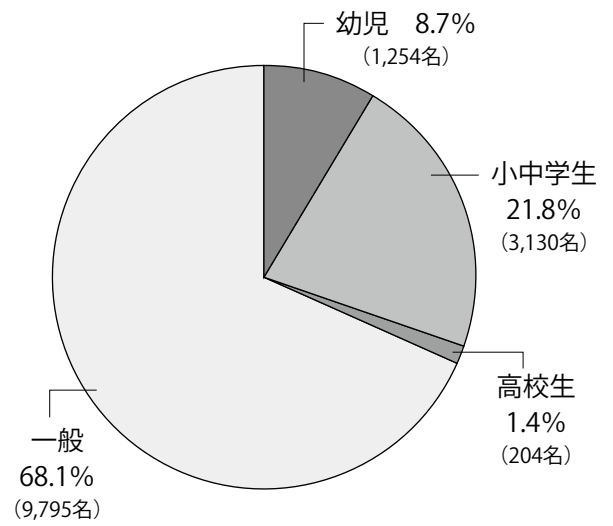
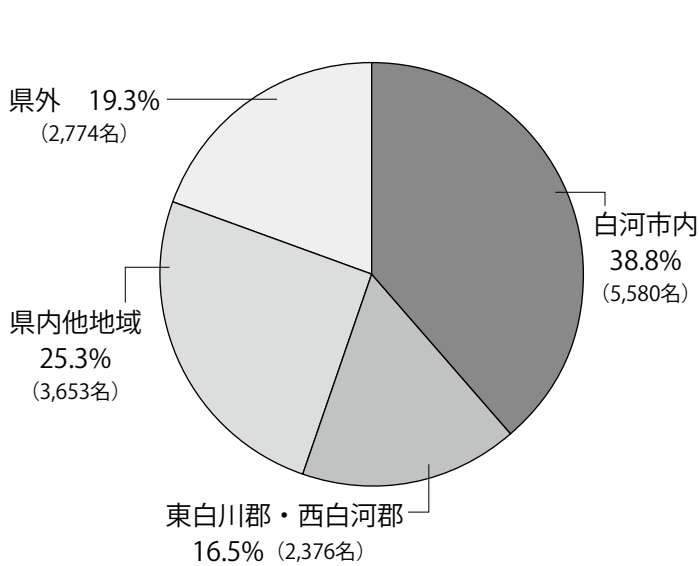
(3) 団体利用状況

入館した団体数は114団体（令和4年度は85団体）、団体入館者数は2,310名（令和4年度2,121名）となった。前年度から29団体、189名の増加となったが、入館者数全体の増加に比較してやや伸び悩んだ感がある。

このうち小学校の利用は、31校1,074名であった。前年度の30校1,180名から件数では微増、入館者数は減となっている。一方、デイサービス等社会福祉関係の利用が前年度の8件111名から20件255名と倍以上の伸びを見せている。

月別入館者数

令和5年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	令和4年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	282	698	818	162	980	0	980	753	0
5月	426	866	1,058	234	1,292	40	1,332	1,125	103
6月	661	716	1,117	260	1,377	13,733	15,110	1,017	547
7月	680	879	1,345	214	1,559	13,107	14,666	1,376	109
8月	586	1,081	1,254	413	1,667	484	2,151	1,195	0
9月	305	937	964	278	1,242	84	1,326	1,155	93
10月	231	971	908	294	1,202	249	1,451	1,021	223
11月	633	1,128	1,483	278	1,761	285	2,046	1,217	11,122
12月	136	556	572	120	692	6	698	597	184
1月	103	449	469	83	552	0	552	633	0
2月	289	753	815	227	1,042	0	1,042	976	350
3月	256	761	806	211	1,017	0	1,017	911	118
合計	4,588名	9,795名	11,609名	2,774名	14,383名	27,988名	42,371名	11,976名	12,849名



地域別構成比

年齢別構成比

団体利用者一覧

団体		令和5年度													令和4年度	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数	2	3	3	1	1	2	6		1	2	1	1	23	16
		来館者数	18	41	37	11	9	17	67		11	15	10	17	253	195
	小学校	学校数	1		17	9		1		1			2		31	30
		来館者数	14		488	333		68		85			86		1,074	1,180
	中学校	学校数						1							1	1
		来館者数						43							43	35
	高等学校	学校数		1					1						2	2
		来館者数		24						27					51	61
	支援学校	学校数						1							1	1
		来館者数						14							14	27
大学	学校数													0	0	
	来館者数													0	0	
幼小中高PTA (保護者のみ)	学校数													0	0	
	来館者数													0	0	
幼小中高PTA (親子レク等)	学校数			1	1									2	2	
	来館者数			33	25									58	132	
生涯学習関係	研究会	会数				1			1	1				3	0	
		来館者数				8			10	9				27	0	
	子ども会	会数			1				1					2	1	
		来館者数			18				14					32	30	
公民館等	館数	1		1	1		1	3	4				11	9		
	来館者数	15		25	22		27	39	68				196	170		
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数			2	2	2	1	7	1	4		1	20	8	
		来館者数			29	35	18	18	75	21	49		10	255	111	
文化団体関係	資料館等	館数												0	0	
		来館者数												0	0	
	歴史研究	団体数							1					1	0	
		来館者数							20					20	0	
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数						1	1	1				3	2	
		来館者数						3	28	25				56	12	
その他	その他	団体数	1	2	2			3	1		2		3	14	13	
		来館者数	21	30	31			82	24		31		12	231	168	
合計	団体数	5	6	27	15	3	11	22	8	7	2	7	1	114	85	
	団体来館者数	68	95	661	434	27	272	304	208	91	15	118	17	2,310	2,121	
総来館者数		980	1,292	1,377	1,559	1,667	1,242	1,202	1,761	692	552	1,042	1,017	14,383	11,976	
団体利用者の割合 (%)		6.94%	7.35%	48.00%	27.84%	1.62%	21.90%	25.29%	11.81%	13.15%	2.72%	11.32%	1.67%	16.06%	17.71%	

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務」の仕様書に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 建築基準法第12条定期点検業務
(株) 兼子組
- (2) 空調設備点検業務
常光サービス(株)
- (3) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信(株)
- (4) 電話設備等点検業務
(株) ユニテック
- (5) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス(株)
- (6) 自動ドア保全業務
常光サービス(株)
- (7) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財) 東北電気保安協会福島事業本部
- (8) 展示用及び講堂用AV機器保守点検管理業務
(株) オリエンタル・エージェンシー
- (9) 植栽管理業務
(有) 西牧植園
- (10) 清掃業務
(株) タイセークリーン
- (11) 除雪業務
(有) 猪越土木
- (12) 警備業務
A L S O K 福島(株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 令和5年6月5日
ガスヒートポンプエアコン修繕
- (2) 令和5年6月27日
特別収蔵庫送風機用Vベルト交換修繕
- (3) 令和5年7月21日
野外展示「縄文の家」説明看板修繕
- (4) 令和5年8月10日
女子トイレ照明用リモコンリレー交換
- (5) 令和5年9月29日
一般収蔵庫誘導灯交換修繕

- (6) 令和5年9月29日
福島県文化財センター白河館「縄文時代の家」修繕工事(福島県直轄事業)
- (7) 令和5年12月12日
一般収蔵庫誘導灯他交換修繕
- (8) 令和6年2月13日
プロムナードギャラリー南側出入口扉修繕
- (9) 令和6年3月4日
ガスヒートポンプエアコン室外機冷却水三方弁交換修繕
- (10) 令和6年3月4日
特別収蔵庫用空調設備加湿シリンダ交換修繕
- (11) 令和6年3月13日
特別展示室リモコンリレー交換修繕
- (12) 令和6年3月29日
福島県文化財センター白河館AV機器等修繕工事(福島県直轄事業)
- (13) 令和6年3月31日
福島県文化財センター白河館正面自動ドア改修工事(福島県直轄事業)

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺物	写真	図面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	52,928	3,384	1,242	540	10	58,104
特別収蔵庫	763					763
合計	53,691	3,384	1,242	540	10	58,867

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属質遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺物(11件)

貸出期間	貸出先	資料名	数量(点)
令5.4.1～令6.3.31	原町火力発電所(常設展示)	南相馬市大船廻A遺跡出土砂鉄ほか	21
令5.4.1～令6.3.31	須賀川市立博物館(常設展示)	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
令5.4.1～令6.3.31	白河市歴史民俗資料館(常設展示)	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
令5.4.1～令6.3.31	福島県立博物館(常設展示・継続分)	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,171
令5.4.1～令6.3.31	とみおかアーカイブ・ミュージアム(常設展)	富岡町前山A遺跡出土縄文土器ほか	10
令5.4.1～令6.3.31	二本松市教育委員会	二本松市塩沢上原A遺跡出土縄文土器ほか	27
令5.4.21～令5.8.21	福島県立博物館(企画展「Go!Go!5世紀-東北地方中・南部の古墳文化-」)	玉川村江平遺跡出土土師器ほか	186
令5.8.24～令5.12.26	国見町あつかし歴史館(企画展「国見町の古墳文化」)	国見町矢ノ目遺跡出土土師器ほか	12
令5.8.29～令5.12.15	じょーもびあ宮畑(企画展「しゃがむ土偶が使われた頃の社会」)	国見町川原遺跡出土縄文土器ほか	12
令6.1.12～令6.3.31	福島県立博物館(常設展示・変更分)	須賀川市高木遺跡出土土師器	5
令6.3.22～令6.9.22	石川町歴史民俗資料館(常設展示)	石川町七郎内C遺跡出土縄文土器ほか	34
		合計	1,484

(2) 模型及びレプリカ(1件)

貸出期間	貸出先	資料名	数量(点)
令5.4.1～令6.3.31	福島県立博物館(常設展示・継続分)	獣脚付容器(復元品)ほか	19
		合計	19

3. 写真掲載等承認(30件)

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資料名	数量(点)
5.4.1	柏崎市立博物館 春季企画展「軽井川南遺跡総まくり-古代の鉄づくりを知る-」展示パネル	獣脚付容器・把手付鍋	2
5.4.6	石川町新歴史民俗資料館 常設展示室壁面解説パネル	石川町七郎内C遺跡1号住居跡遺物出土状況ほか	4
5.4.13	福島県立博物館 企画展展示図録「Go!Go!5世紀-東北中・南部の古墳文化-」、企画展リーフレット、福島県立博物館広報誌「なじよな」第15号、福島県立博物館公式ホームページ、公式ツイッター、公式フェイスブック	郡山市正直A遺跡1号祭祀跡ほか	17
5.4.21	株式会社光文書院『社会科資料集』及びそのweb版	弥生時代の鍬(復元品)	1
5.4.21	サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社 株式会社正進社刊『社会科資料集6年』	古墳時代の食事	1
5.5.26	大安場史跡公園管理センター 企画展解説資料『福島県における古墳出土石製祭祀遺物』	南相馬市桶師屋遺跡出土石製模造品	1
5.5.26	株式会社ABCアーク 月刊『歴史人』	飯館村上ノ台A遺跡7号埋甕	1
5.6.14	只見川電源流域振興協議会 『奥会津文化施設連携展 奥会津の縄文』	西会津町塩喰岩陰遺跡土層断面ほか	7
5.6.20	株式会社文化遺産情報研究所 文化遺産紹介映像「会津の木地師-その深淵と伝統を探る-」	いわき市大猿田遺跡出土木製品ほか	4
5.6.20	矢吹町教育委員会 『古代ふくしまの開発-矢吹が原を中心に-』チラシ	矢吹町下宮崎遺跡出土土師器ほか	6
5.7.7	株式会社悠工房 『難関高校入試対策 精選問題集』	会津大塚山古墳出土三角縁神獸鏡復元品	1
5.7.11	相馬市教育委員会 『相馬市史』第1巻通史編I 原始・古代・中世 『相馬市史』第1巻別冊 資料補遺	相馬市善光寺遺跡出土陶器ほか	190
5.7.11	玉川一郎 『ふるさと川房』	南相馬市広谷地遺跡3号住居跡全景ほか	2
5.8.3	株式会社新泉社 シリーズ遺跡を学ぶ021 『律令国家の対蝦夷製作 相馬の製鉄遺跡群』改訂版	南相馬市金沢地区製鉄遺跡群遠景ほか	48
5.8.17	岡安光彦『日本における覆い焼きの成立と展開(仮題)』	会津若松市一ノ堰B遺跡出土弥生土器ほか	8
5.8.17	多賀城市教育委員会 令和5年度企画展「文字が語る古代多賀城」展示パネル・リーフレット	弓を射る兵士	1
5.8.30	湯川村教育委員会教育長 湯川村公民館事業「湯川れきし文化訪問」第4回講座資料	湯川村桜町遺跡出土弥生土器ほか	4
5.8.30	齋藤 忠 写真集(題名未定)	福島県文化財センター白河館外観写真ほか	5

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資料名	数量(点)
5.9.22	川越市立博物館 川越市立博物館第50回企画展「酒と宴」展示パネル及び図録	弥生時代の食卓ほか	2
5.9.22	相馬市教育委員会 『相馬市史』第1巻通史編I 原子・古代・中世	相馬市善光寺遺跡1号窯跡ほか	2
5.9.22	藤木海 『茨城県考古学協会古代瓦シンプodium発表要旨集』及び発表用パワーポイント	泉崎村関和久上町遺跡出土瓦ほか	6
5.10.27	小林嵩『石川日出志先生退職記念論集』(仮)	三島町小和瀬遺跡出土環状石器	1
5.11.14	株式会社山川出版社 Japanese History for Highschool (『英文詳細日本史』)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1
5.12.8	仙台市富沢遺跡保存館 仙台市富沢遺跡保存館企画展「旧石器×ハンター!!」展示パネル	南相馬市赤柴遺跡 旧石器時代石器・礫炭化物分布図ほか	3
5.12.8	石川町教育委員会 石川町新歴史民俗資料館のハンズオン展示	石川町七郎内C遺跡出土縄文土器	1
6.1.22	株式会社敬文舎 安齋正人『縄文時代の生活世界』電子書籍版	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
6.1.22	株式会社昭和堂 『大学的福島ガイドーこだわりの歩き方』	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡遠景ほか	3
6.2.19	古代城柵官衙遺跡検討会 『古代東北の城柵・官衙遺跡』	相馬市山岸硝庫跡出土土師器	1
6.3.7	福島県立博物館 令和6年度企画展「縄文DX」の広報物・観覧チケット・図録・展示パネル	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	67
6.3.27	公益財団法人福島県文化振興財団 福島県歴史資料館トピックス展示「多賀城とふくしま」展示パネル	多賀城に向かう兵士ほか	3
		合計	394

4. 収蔵品利用 (1件)

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資料名	数量(点)
6.7.7	松本真木 ぴ〜ぐ〜と縄文フレンドTシャツ		1
		合計	1

5. 資料閲覧

(1) 遺物 (32件)

閲覧日	閲覧者(閲覧目的)	資料名	数量(点)
令5.4.5	福島県立博物館(企画展事前調査)	矢吹町上宮崎B遺跡出土大刀ほか	8
令5.4.20	県外研究者(調査研究)	浪江町鹿屋敷遺跡出土石器ほか	63
令5.5.18	仙台市博物館(企画展事前調査)	三春町四合内B遺跡出土土像	1
令5.7.5	福島県文化振興財団遺跡調査部(報告書作成のための調査)	会津美里町下谷ヶ地平B遺跡出土土器ほか	203
令5.7.29	県内研究者(調査研究)	福島市弓手原A遺跡写真	1
令5.8.2	県内研究者(調査研究)	福島市弓手原A遺跡出土木製品	6
令5.8.3	じょーもびあ宮畑(企画展事前調査)	国見町川原遺跡出土縄文土器ほか	14
令5.8.8	福島県文化振興財団遺跡調査部(報告書作成のための調査)	石川町小田口C遺跡出土弥生土器ほか	146
令5.8.8~8.10	県外研究者(調査研究)	いわき市大久保F遺跡出土須恵器ほか	482
令5.8.15	県外研究者(調査研究)	飯館村岩下C遺跡出土弥生土器ほか	377
令5.8.16	県内研究者(調査研究)	浪江町赤坂D遺跡出土瓦ほか	37
令5.8.24	豊田市生涯活躍部博物館準備課(特別展事前調査)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	7
令5.9.8	県外研究者(調査研究)	相馬市善光寺遺跡出土須恵器ほか	410
令5.10.13	県外研究者(調査研究)	相馬市善光寺遺跡出土須恵器ほか	344
令5.10.17・18	大安場史跡公園(報告書作成のための調査)	郡山市正直B遺跡出土土師器ほか	33
令5.11.12	県内研究者(調査研究)	小野町落合遺跡出土土製品ほか	10
令5.12.23	県内研究者(調査研究)	飯館村上ノ台D遺跡出土縄文土器	7
令6.1.6~1.8	福島県立博物館(企画展事前調査)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	278
令6.1.11	県内研究者(調査研究)	本宮市高木遺跡出土土師器	42
令6.1.11	県内研究者(調査研究)	郡山市正直A遺跡出土石製模造品ほか	115
令6.1.13	県外研究者(調査研究)	飯館村上ノ台A遺跡出土縄文土器	1
令6.1.23・30	福島県立博物館(企画展事前調査)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	278
令6.1.30・31	福島県立博物館(企画展事前調査)	福島市八景腰巻遺跡出土縄文土器ほか	172
令6.2.2	多賀城市市民文化創造課(レプリカ製作のための調査)	白河軍団兵士装備復元品	2
令6.2.11	県外研究者(調査研究)	本宮市高木・北ノ脇遺跡出土縄文土器	19
令6.2.11	県外研究者(調査研究)	南相馬市赤柴遺跡出土石器ほか	20
令6.3.5~7	福島県立博物館(企画展事前調査)	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	98
令6.3.6	南相馬市(企画展事前調査)	南相馬市八重米坂A遺跡出土縄文土器ほか	69
令6.3.12	県外研究者(調査研究)	白河市筑内古墳群出土馬具	4
令6.3.14	県外研究者(調査研究)	会津美里町下谷ヶ地平C遺跡出土土器ほか	19
令6.3.14	檜葉町教育委員会(企画展事前調査)	檜葉町小埴城跡出土陶磁器	34
令6.3.26・27	南相馬市(企画展事前調査)	南相馬市八重米坂A遺跡出土縄文土器ほか	69
		合計	3,369

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「まほろんの逸品」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
- ⑤「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

⑥「クイズ福島歴史発見」

⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「展示コーナーB」(旧話題の遺跡)

⑨「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

⑩「国指定重要文化財 法正尻遺跡」

⑪映像展示

※⑤⑧⑨は、コーナー名称にとらわれず、フレキシブルに展示スペースを活用するため名称を変更した。

(2) 展示替え

令和5年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業との関連をもたせる内容とした。

1) 学芸員がおすすめする収蔵品を「まほろんの逸品」として、前年度からの継続も含めて計5回の展示を行った。

展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所蔵者	備考
まほろんのイッピン	『鉄滓と瓦』赤坂D遺跡(浪江町)	令5.4.1～令5.5.31	福島県教育委員会	令和4年度からの継続
	『ちょっとかわいい おとぼけ三人組』土偶 桑名邸遺跡(天栄村)	令5.6.1～令6.2.28	福島県教育委員会	
	桑名邸遺跡(天栄村)381号土坑出土 深鉢形土器	令5.7.21～令6.3.31	福島県教育委員会	
	『江戸時代の仏具』三鉢杵 観音山遺跡(石川郡玉川村)、錫杖頭 後畑B遺跡(双葉郡双葉町)	令5.8.1～令5.10.7	福島県教育委員会	
	『深鉢形土器』法正尻遺跡(猪苗代町・磐梯町)	令6.2.28～令6.3.31	福島県教育委員会	
展示コーナーA (旧みんなの研究広場)	まほろん収蔵の天王山式土器	令5.4.1～令6.3.31	福島県教育委員会	令和4年度からの継続
	まほろん和鏡コレクション	令5.4.1～令5.6.27	福島県教育委員会	令和4年度からの継続
	桜町遺跡の弥生土器	令5.7.1～令6.3.31	福島県教育委員会	
	森塾生の活動(パネル展示)	令5.4.1～令6.3.31		
展示コーナーB (旧話題の遺跡)	八景腰巻遺跡展	令5.4.1～令5.7.6	福島県教育委員会	令和4年度からの継続
	小和瀬遺跡展	令5.7.7～令6.2.9	福島県教育委員会	
	学法石川高校考古学部の研究	令5.8.1～令6.2.17	学法石川高校 高原洋輔 教諭	
	ふくしまの旧石器時代遺跡	令6.2.9～令6.3.31	福島県教育委員会	
展示コーナーC (旧しらかわ歴史名場面)	"博物館実習生による展示 『会津盆地の遺跡から読み解く地域間交流』"	令5.4.1～令5.6.28	福島県教育委員会	令和4年度からの継続
	"博物館実習生による展示 『新収蔵資料紹介 浪江町鹿屋敷遺跡・赤坂D遺跡』"	令5.9.2～令6.3.31	福島県教育委員会	
国指定重要文化財 公開		令5.4.1～令5.5.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令5.6.1～令5.7.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令5.8.1～令5.9.30	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令5.10.1～令5.11.30	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令5.12.1～令6.1.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
	令6.2.1～令6.3.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財	

2) 「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

このコーナーは、歴史や文化財等に関する研究を紹介するもので、令和5年度は、前年度からの継続も含めて、計5回の展示を行った。

◆まほろん収蔵の天王山式土器(前年度からの継続)

白河市天王山遺跡(国指定史跡)の紹介と当館収蔵の能登遺跡・和泉遺跡の天王山式土器等を展示した。

◆まほろん和鏡コレクション(前年度からの継続)

喜多方市荒屋敷遺跡などから出土した平安時代から江戸時代の和鏡11点を展示した。

◆桜町遺跡の弥生土器

河沼郡湯川村桜町遺跡から出土した弥生土器を展示した。

◆森塾生の活動

小学4年生～中学生を対象とした通年型の体験学習である森の塾の活動について、令和4年度の第22期及び令和5年度の第23期の成果をパネル等で紹介した。

3) 展示コーナーB(旧話題の遺跡)

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーで、令和5年度は、前年度からの継続も含めて、計4回の展示を行った。

◆八景腰巻遺跡展(令和4年度からの継続)

福島市八景腰巻遺跡から出土した縄文土器や石器を展示した。

◆小和瀬遺跡展

大沼郡三島町小和瀬遺跡から出土した縄文土器を展示した。

◆学法石川高校考古学部の研究

学校法人石川高等学校考古学部が採集した旧石器時代の石器の展示、及び同部3年(当時)田中友陽さんによる白川城跡の研究を基にしたパネル展示等を行った。

◆ふくしまの旧石器時代遺跡

当館に収蔵される後期旧石器時代の33遺跡の石器を展示した。

4) 「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

このコーナーは、地元自治体と連携した展示



学法石川高校考古学部の研究

も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

令和5年度は、前年度からの継続も含めて、計2回の展示を行った。

◆博物館実習生による展示：『会津盆地の遺跡から読み解く地域間交流』

令和4年度に当館で実施した博物館実習の一環で湯川村桜町遺跡や会津若松市西木流D遺跡などから出土した弥生土器や土師器を展示した。

◆博物館実習生による展示：『新収蔵資料紹介浪江町鹿屋敷遺跡・赤坂D遺跡』

令和5年度に当館で実施した博物館実習の一環で浪江町鹿屋敷遺跡から出土した土師器や、赤坂D遺跡から出土した瓦等を展示した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡出土品のうち、国指定重要文化財の縄文土器などを選び、4月から計6回の展示を行った。

(3) 展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料及び施設の状態について、展示担当の学芸員が定期的に点検を実施し、軽微な修繕は、展示担当の学芸員が行った。また、専門業者に依頼した修繕箇所及び方法は以下のとおりである。

◆縄文時代の家

棟部分をはじめとして屋根の傷みが進行していたため、福島県の施工により修繕を行った。また、付設の解説看板の劣化が進行したため、印刷パネル部分を交換した。

2. 企画展示

令和4年度に開催した「古代ふくしまの開発一矢吹が原を中心に」の会期をゴールデンウィークまで延長し、これを含め令和5年度は企画展示を5回開催した。

(1) ふくしま歴史探訪展「古代ふくしまの開発一矢吹が原を中心に」

会期：令和5年1月21日(土)～5月7日(日)

(開催日数：90日間うち令和5年度分31日間)

観覧者数：3,930名うち令和5年度分1,762名

展示構成、内容については『年報～令和4年度実績～』に記載している。

(2) 収蔵資料展「ものづくりに学ぶーU(アンダー)15の考古学ー」

会期：令和5年6月3日(土)～8月20日(日)

(開催日数68日間)

観覧者数：4,176名

1) 趣旨

小学生をメインターゲットとして、遺物からわかる福島県の「ものづくり」についての内容とし、ものはどうやってつくられたのか、ものに残る痕跡からなにがわかるのかをメインテーマにしている。

アンダー 15
～U15の考古学～
ものづくりに学ぶ
「いまそこにある
作り手たちの想い」
2023
6/3 (土) ~ 8/20 (日)
9:30~17:00 (最終入館16:30)
※休館日：月曜日(7月17日は開館)、7月18日
福島県文化財センター白河館
福島県白河市白塚一里段 86 TEL: 0248-21-0700
入館無料
まぼろし
【関連イベント】 ●館長の子ども考古学教室 ●子ども考古学教室
考古学教室の参加費は無料です。 ●【講師】石川白出志(館長) ●【講師】藤本美(福島県立白河高等学校)・佐藤晴子(館長)
【日時】7月9日(日) 午前・午後2回開催 【日時】8月6日(日) 午前・午後2回開催
【会場】まぼろし展示室 【会場】まぼろし展示室
【定員】各40名(予約申込、応募多数の場合は抽選) 【定員】各40名(予約申込、応募多数の場合は抽選)

ものづくりに学ぶポスター

土、石、木、金属の4つの素材でつくられた遺物を展示し、それぞれの素材の入手方法や、材質に応じた加工の方法や利用の方法を見出すことができることを紹介した。

2) 展示の構成と内容

①土

土でつくられた遺物の代表格である、土器を採り上げ、材料となる粘土の採取から、成形、焼成に至る土器が出来上がるまでの流れを紹介した。成形や施文技法については復元品を用いて解説したほか、成形・整形の痕跡が残る縄文土器・土師器、焼成時に破損した土師器や須恵器など、土器の製作に関わる遺物を中心に展示した。

②木

出土した木製品から推察される製作技術と、現代に残っている木地師の技術を比較する展示とした。

木の種類とその特徴の説明や、製品をつくる際の木の切り分け方、手引きロクロによる削り方、木の曲げ方など、特に挽物と曲物に関わる製作方法を解説した。古代から中世に属する出土品と現代の木製品を並べて展示し、技術的な共通点が見られることを紹介した。

また、特別展示室入り口に奥会津博物館から借用した、復元されたフタリビキロクロを設置し、職員による挽物づくりの実演や、来館者による体験を行った。



フタリビキロクロ体験

③石

石を素材とする利器である旧石器時代・縄文時代の石器を採り上げた。石器に適した石材とその産出地、割る、磨くなどの加工方法、石の割れ方及び割れた石に残される痕跡などについての解説を実物資料とともに示した。

また、遺跡から出土した接合資料と石器の製

「ものづくりに学ぶーU15の考古学」展示資料一覧

所在地	遺跡名	資料名	点数	所蔵先	所在地	遺跡名	資料名	点数	所蔵先
プロローグ									
いわき市	大猿田遺跡	挽物	1	当館収蔵					
土									
須賀川市	高木遺跡	土師器	1	当館収蔵	玉川村	栗木内遺跡	須恵器	2	当館収蔵
石川町	七郎内C遺跡	縄文土器	1	当館収蔵	南相馬市	鳥打沢A遺跡	須恵器	3	当館収蔵
南相馬市	植松C遺跡	縄文土器	1	当館収蔵	会津若松市	上吉田A遺跡	須恵器	1	当館収蔵
西会津町	塩喰岩陰遺跡	縄文土器	1	当館収蔵	新地町	善光寺遺跡	須恵器	1	当館収蔵
須賀川市	一斗内遺跡	縄文土器	1	当館収蔵	浪江町	赤坂D遺跡	須恵器	2	当館収蔵
郡山市	正直A遺跡	土師器	1	当館収蔵	相馬市	猪倉B遺跡	須恵器	1	当館収蔵
会津若松市	西木流C遺跡	土師器	2	当館収蔵	相馬市	猪倉B遺跡	転用焼台	2	当館収蔵
二本松市	田地ヶ岡遺跡	縄文土器	1	当館収蔵					
木									
いわき市	大猿田遺跡	嵌め木	2	当館収蔵	小野町	小又遺跡	槍鉋	1	当館収蔵
福島市	弓手原A遺跡	荒型	2	当館収蔵	楡葉町	鍛冶屋遺跡	槍鉋	1	当館収蔵
喜多方市	高堂太遺跡	荒型	1	当館収蔵	矢吹町	鴨ヶ館跡	鉋	1	当館収蔵
白河市	佐平林遺跡	挽物未製品	1	当館収蔵			ナカキリチョーナ	1	個人蔵
いわき市	大猿田遺跡	削片	1	当館収蔵			ヒラチョーナ	1	奥会津博物館蔵
会津若松市	西木流C遺跡	挽物椀	2	当館収蔵			ろくろの爪(復元品)	1	奥会津博物館蔵
喜多方市	高堂太遺跡	ヤマザクラの皮	1	当館収蔵			フタリビキロクロ(復元品)	1	奥会津博物館蔵
会津若松市	鶴沼C遺跡	曲物側板	1	当館収蔵			挽物木地素材	1	三浦木工所蔵
会津若松市	鶴沼C遺跡	柄杓(曲物)	1	当館収蔵			挽物木地荒型	1	三浦木工所蔵
いわき市	大猿田遺跡	曲物底板	1	当館収蔵			挽物木地椀	1	三浦木工所蔵
桑折町	日照田遺跡	曲物底板	1	当館収蔵			会津漆器	1	個人蔵
相馬市	大森A遺跡	曲物	1	当館収蔵			桧枝岐産曲物	2	個人蔵
猪苗代町	登戸遺跡	鋸	1	当館収蔵					
石									
天栄村	桑名邸遺跡	石核	1	当館収蔵	浪江町	中平遺跡	磨凹石	2	当館収蔵
玉川村	江平遺跡	石器(接合資料)	2	当館収蔵	浪江町	中平遺跡	石皿	1	当館収蔵
白河市	一里段A遺跡	石器(接合資料)	2	当館収蔵	本宮市	高木遺跡	石皿	2	当館収蔵
新地町	三貫地遺跡	石器(接合資料)	1	当館収蔵		【実験製作品】	珪質頁岩 原石	2	大場正善氏蔵
南相馬市	荻原遺跡	石器(接合資料)	1	当館収蔵			珪質頁岩 石核	1	当館収蔵
福島市	弓手原A遺跡	石刃	6	当館収蔵			黒曜石	1	当館収蔵
新地町	赤柴遺跡	尖頭器	1	当館収蔵			黒曜石	1	個人蔵
南相馬市	荻原遺跡	尖頭器	2	当館収蔵			サヌカイト	2	個人蔵
浪江町	乱塔前遺跡	尖頭器	1	当館収蔵			ガラス質安山岩	1	個人蔵
飯館村	羽白D遺跡	尖頭器	1	当館収蔵			流紋岩	1	当館収蔵
小野町	猪久保城跡	尖頭器	1	当館収蔵			黒曜石(カタマリ)	1	大場正善氏所蔵
南相馬市	羽山B遺跡	尖頭器	1	当館収蔵			黒曜石(チップ)	1	大場正善氏所蔵
平田村	空釜B遺跡	尖頭器	1	当館収蔵			黒曜石(粉)	1	大場正善氏所蔵
石川町	上悪戸遺跡	台形様石器	1	当館収蔵			黒曜石(カケラ)	1	大場正善氏所蔵
楡葉町	大谷上ノ原遺跡	ナイフ形石器	1	当館収蔵			黒曜石 ヤリ	1	大場正善氏所蔵
浪江町	小迫遺跡	ナイフ形石器	1	当館収蔵			黒曜石 細石刃核	3	大場正善氏所蔵
郡山市	弥明遺跡	角錐状石器	1	当館収蔵			黒曜石 細石刃	41	大場正善氏所蔵
郡山市	弥明遺跡	円形搔器	1	当館収蔵			植刃器	2	大場正善氏所蔵
南相馬市	天化沢A遺跡	石鏃	1	当館収蔵			石のハンマー	3	大場正善氏所蔵
飯館村	羽白C遺跡	石匙	6	当館収蔵			ソフトハンマー	1	大場正善氏所蔵
南相馬市	荻原遺跡	石匙	2	当館収蔵			石を押しはがす作業に使用する道具	1	大場正善氏所蔵
飯館村	上ノ台A遺跡	搔削器	1	当館収蔵					
浪江町	中平遺跡	磨製石斧	1	当館収蔵			石刃	12	大場正善氏所蔵
南相馬市	天化沢A遺跡	石庖丁	2	当館収蔵			石刃をとったあとに残ったカタマリ	2	大場正善氏所蔵
二本松市	トロミ遺跡	チョッパー	1	当館収蔵					
二本松市	トロミ遺跡	石核	1	当館収蔵			石のナイフ	2	大場正善氏所蔵
飯館村	羽白C遺跡	石刀・石剣	6	当館収蔵			石のキリ	1	大場正善氏所蔵
飯館村	羽白C遺跡	石冠	1	当館収蔵			石のスクレイパー	2	大場正善氏所蔵
飯館村	羽白C遺跡	垂飾品	6	当館収蔵			石の彫刻刀	3	大場正善氏所蔵
浪江町	田子平遺跡	垂飾品	2	当館収蔵			石のヤリ(両面加工尖頭器)	2	大場正善氏所蔵
飯館村	松ヶ平A遺跡	垂飾品	1	当館収蔵			石のヤリ(押出型尖頭器)	2	大場正善氏所蔵
福島市	小屋館遺跡	垂飾品	1	当館収蔵			ジャック・ベングラン氏製作石器接合資料	1	大場正善氏所蔵
南相馬市	赤柴遺跡	垂飾品	1	当館収蔵					
飯館村	羽白D遺跡	垂飾品	1	当館収蔵			大場正善氏製作石器接合資料	1	大場正善氏所蔵
天栄村	桑名邸遺跡	垂飾品	1	当館収蔵					
石川町	七郎内C遺跡	垂飾品	1	当館収蔵					
鉄									
南相馬市	館越遺跡	木炭	1	当館収蔵	南相馬市	大船迫A遺跡	炉壁	1	当館収蔵
	南相馬市右田浜採取	砂鉄	1	当館収蔵	南相馬市	大船迫A遺跡	炉壁	2	当館収蔵
南相馬市	大船迫A遺跡	羽口	12	当館収蔵	南相馬市	立ノ沢遺跡	羽口	2	当館収蔵
南相馬市	長瀬遺跡	通風管	1	当館収蔵	新地町	三貫地遺跡	羽口	2	当館収蔵
南相馬市	横大道製鉄遺跡	鉄塊	3	当館収蔵	新地町	三貫地遺跡	鍛造削片	1	当館収蔵
南相馬市	鳥井沢B遺跡	炉壁	1	当館収蔵	新地町	北原遺跡	椀形滓	1	当館収蔵
南相馬市	鳥打沢A遺跡	炉壁	1	当館収蔵	新地町	北原遺跡	金床石	1	当館収蔵
南相馬市	横大道製鉄遺跡	炉壁	1	当館収蔵	相馬市	山田A遺跡	鋳型	3	当館収蔵
南相馬市	鳥打沢A遺跡	炉底滓	1	当館収蔵	南相馬市	横大道製鉄遺跡	鉄塊	1	当館収蔵
南相馬市	割田H遺跡	流出滓	1	当館収蔵					

作実験による資料を展示し、旧石器時代にはすでに定型的な剥片を採取する技術を持っていたことを紹介した。さらに、関連イベントとして、山形県埋蔵文化財センターの大場正善氏による石器製作の実演を白河館内で行った。



大場正善氏石器製作実演

④鉄

古代の福島県浜通り地方で盛んに行われていた鉄づくりについて解説した。材料になる砂鉄が、海岸で採取できたことや、製錬に箱形炉と竪形炉の大きく2種類の炉が使われていたことを紹介した。

また、チタン分が高い砂鉄への対策として羽口を多用するという福島特有の工夫、炉内の環境を保つためにふいご送風のコントロールが重要であったなどについても解説した。

⑤ものづくりに関わる動画

ものづくりがどのように行われたのか理解を深めてもらうために、動画を活用した。

まほろんで行われた製鉄実験の様子のほか、大場氏が石器製作をしている様子、福島県農林水産部が製作した、県内各地で行われているものづくりに関わる動画を借用して、特別展示室内で常時見られるようにした。

3) 成果と反省

考古資料に加え、復元品や民具、動画など、ものづくりについて理解を深めてもらうため、様々な資料を活用した。考古資料と民具を合わせて展示したことや動画を活用したことは、来館者からも好評価を得ている。

実際に体験できるフタリビキロクロの展示は、展示期間が夏休み期間とも重なっていたこともあり、メインターゲットとした小学生以下からの評判が良く、会期中に何度も体験に来た来館

者が複数見られた。この展示は大人からも好評であった。展示の一環として触れることのできるいわゆるハンズ・オン展示を行うことの有効性が感じられた。

反省点として、素材をどう手に入れて、そこからどうやってものづくりをおこなっていたのかを詳細に解説したため、子ども向けの展示としては説明が多くなってしまった。今後の子ども向け展示の際の改善としたい。

(3) 特別展「前田遺跡調査成果展」

会期：令和5年9月16日(土)～10月15日(日)

(開催日数26日間)

観覧者数：1,527名

前田遺跡調査成果展ポスター



前田遺跡調査成果展

「前田遺跡調査成果展」展示資料一覧

資料名	時代	点数	資料名	時代	点数
木製品 石斧柄	縄文時代中期後半	1	編み組製品 敷物?	縄文時代中期後半	1
木製品 石斧柄	縄文時代後期前葉	1	編み組製品群 籠・素材束	縄文時代中期後半	1
木製品 横槌	縄文時代中期後半	1	漆塗り土器	縄文時代中期後葉	1
木製品 尖り棒	縄文時代中期後半	1	縄文土器 深鉢	縄文時代中期中葉	1
木製品 刈払い具	縄文時代中期後半	1	縄文土器 深鉢	縄文時代中期後葉	1
權状木製品	縄文時代中期後半	1	縄文土器 深鉢	縄文時代後期前葉	1
木製品 火きり臼	縄文時代中期後半	1	土製耳飾り	縄文時代中期後葉～後期前葉	23
不明木製品	縄文時代後期前葉	1	土偶	縄文時代後期前葉	1
木製品 すくい具把手	縄文時代中期後半	1	土偶	縄文時代中期後葉～晩期	2
木製品 すくい具	縄文時代中期後半	3	小型土器	縄文時代中期後葉～後期前葉	2
木製品 すくい具未成品	縄文時代中期後半	2	土製腕輪	縄文時代後期前葉	3
木製品 浅鉢	縄文時代中期後半	2	土錘	縄文時代後期～晩期	6
木製品 把手付鉢	縄文時代中期後半	2	土器片製円盤	縄文時代中期後葉～晩期	13
木製品 把手付高台鉢	縄文時代中期後半	1	石斧型土製品	縄文時代中期後葉～晩期	1
木製品 把手付浅鉢	縄文時代中期後半	2	磨製石斧	縄文時代中期後葉～晩期	15
木製品 弓	縄文時代中期後半	4	磨製石斧未成品	縄文時代中期後葉～晩期	3
木製品 弓未成品	縄文時代中期後半	2	石製品	縄文時代中期後葉～晩期	8
木製品 竪櫛	縄文時代中期後半	2	玉	縄文時代中期後葉～晩期	5
編み組製品 笠?	縄文時代中期後半	1	合計		118

1) 趣旨

川俣町前田遺跡は縄文時代中期～晩期の集落遺跡である。通常では残ることの少ない木製品・木質遺物、自然遺物や人骨などが豊富に出土し、全国的にも注目されている。未だ資料整理を行っている最中であり、報告書未刊行ではあるが、今回の展示では、保存処理が済み当館で保管している木製品を中心に速報的に公開した。

2) 展示の構成と内容

①導入 前田遺跡とは…

前田遺跡の位置や調査の概要を説明するとともに、通常残りにくい木製品が前田遺跡ではなぜ残っていたのかを解説する。

②木を知る 前田縄文人

前田遺跡にくらした縄文人がいかにか木の特性を熟知し、道具の用途にあわせて使用していたのかを資料と併せて解説するとともに、赤や黒に鮮やかに塗り分けられた木胎漆器の優品や数多く出土している丸木弓、飾り弓を展示した。

③「編む」「組む」

編み組製品や編み組素材の束の展示から、細かな編み組の技術のみならず、石器以外の刃物がない時代における素材の調整技術の高さを見学者に感じてもらう。

④前田縄文人の暮らし

前田遺跡にくらした縄文人が使用していた土器・土製品・石器・石製品を展示する。

3) 成果と反省

来館者は一様に木製品の保存状態の良さに驚き、さらなる遺物の公開を望む声が多く聞こえた。さらに、県北や県外からの来館者が多かった。その一方で、遺物への影響を極力避けるため照明を落としたことにより、来館者より苦言を呈されたことがあった。

(4) 指定文化財展「会津の中世」

会期：令和5年10月28日(土)～12月10日(日)

(開催日数37日間)

観覧者数：3,139名

1) 趣旨

福島県会津地方では、中世に属する国および県あるいは市町村の指定文化財、史跡が数多く登録されている。また、当館収蔵資料においても、会津縦貫北道路関連遺跡などの近年の調査によって当該期の資料が蓄積されつつある。展



会津の中世

示では、会津盆地周辺で行われた発掘調査の成果の一部を紹介し、院政期にあたる12世紀ごろから、鎌倉、室町時代を経て蘆名氏の治世の終わりごろまでの会津中世史を概観する。

2) 展示の構成と内容

①会津の中世のはじまり

会津盆地西縁に位置する喜多方市松野千光寺経塚からは、経塚としては東北地方最古の紀年銘「大治五年」(1130年)が刻まれる石製外容器が出土しており、出土品は県指定重要文化財となっている。会津地方の中世社会の象徴として、当時の社会背景に触れながら松野千光寺経塚に関わる出土資料を紹介した。

②平安時代の終わり

会津盆地を中心とした平安時代の終わりごろの会津地方の地域性について解説するとともに、優れた貿易陶磁器類が多数出土した会津坂下町の国指定史跡陣が峯城跡を取りあげ、館の形態や県指定重要文化財である出土資料を紹介した。あわせて当館収蔵の喜多方市荒屋敷遺跡の出土資料を関連付けて展示した。

③新宮氏と北田氏

鎌倉時代以降、会津地方を治めた三浦佐原氏の系譜に連なる新宮氏と北田氏の居城とされる喜多方市新宮城跡と湯川村北田城跡について、上空からの空中写真や復元図とともに、新宮城

「会津の中世」展示資料一覧

会津の中世のはじまり									
資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数	資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数
県重文	壺	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	1	県重文	石櫃(身・蓋)	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	1
県重文	独結杆	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	1	県重文	須恵器系陶器 経筒外容器	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	1
県重文	五結鈴	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	2	県重文	須恵器系陶器 四耳壺	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	2
県重文	銅製経筒(身・蓋)	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	1	県重文	須恵器系陶器 壺	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	3
県重文	銅製経筒(身・蓋)	松野千光寺経塚	喜多方市 喜多方市教育委員会	1					
平安時代の終わり									
資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数	資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数
県重文	絹本着色恵日寺絵図	磐梯町	原本所蔵 恵日寺	1	県重文	炭化ソバ	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1
県重文	白磁皿	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	2	県重文	炭化豆類	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1
県重文	白磁碗	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	2		銅鏡	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
県重文	青白磁輪花皿	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1		銅製鈴	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
県重文	青白磁香合	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1		白磁碗	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	13
県重文	高麗青磁片	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1		白磁四耳壺	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
県重文	白磁四耳壺	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	2		青白磁合子	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
県重文	須恵器系陶器 四耳壺	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1		青磁碗	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	7
県重文	須恵器系陶器 壺	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1		須恵器系陶器 片口鉢	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
県重文	土師質土器 柱状高台皿	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	2		黄軸四耳壺	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	2
県重文	土師質土器 皿	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	2		かわらけ 柱状高台皿	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	3
県重文	硯	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1		かわらけ	荒屋敷遺跡	喜多方市 当館収蔵	5
県重文	炭化米	陣が峯城跡	会津坂下町 会津坂下町教育委員会	1					
新宮氏と北田氏									
資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数	資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数
	古瀬戸天目茶碗	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1		かわらけ	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	7
	古瀬戸灰釉縁袖小皿	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1		瓦質土器 風炉	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	3
	高麗象嵌青磁碗	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	3		瓦質土器 火鉢または風炉	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	2
	青磁器台	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1		青白磁 象	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1
	白磁八角杯	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1	村重文	青磁碗	北田城跡	湯川村 湯川村教育委員会	1
	青磁劃花文碗	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1	村重文	かわらけ 皿	北田城跡	湯川村 湯川村教育委員会	1
	青磁 筒形香炉	新宮城跡	喜多方市 喜多方市教育委員会	1		北田城跡復元図	湯川村 湯川村教育委員会	1	
中世の人々の暮らし									
資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数	資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数
市重文	瓷器系陶器 大甕	熊野堂古屋敷遺跡	会津若松市 会津若松市教育委員会	1	県重文	須恵器系陶器 目	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	1
県重文	瓷器系陶器 播鉢	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	2	県重文	瓷器系陶器 播鉢	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	1
県重文	瓷器系陶器 小型鉢	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	3		染付皿	高堂太遺跡	喜多方市 当館収蔵	20
	播鉢片	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	1		銅製握子	高堂太遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
	壺片	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	1		粉引き白	高堂太遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
	焼台	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	1		穀物殻(もみ)	高堂太遺跡	喜多方市 当館収蔵	1
県重文	硯	大戸窯跡群	会津若松市 会津若松市教育委員会	1		銭貨	高堂太遺跡	喜多方市 当館収蔵	3
蘆名氏の二つの山城									
資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数	資料名	遺跡名	所在地	所蔵	点数
	染付皿	向羽黒山城跡	会津美里町 会津美里町教育委員会	2		輸入灰青沙器碗	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	1
	かわらけ	向羽黒山城跡	会津美里町 会津美里町教育委員会	1		瀬戸美濃産陶器皿	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	2
	るつぼ	向羽黒山城跡	会津美里町 会津美里町教育委員会	1		越前産陶器甕	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	1
	輸入磁器鉄絵盤	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	1		信楽産陶器壺	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	1
	輸入磁器染付皿	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	1		瀬戸美濃産天目茶碗	柏木城跡	北塩原村 北塩原村教育委員会	1



会津の中世ポスター

跡出土の香炉の一部と考えられる青白磁象をはじめとする両遺跡の出土遺物を展示した。

④中世の人々の暮らし

鎌倉・室町時代の遺跡をとりあげ、当時の人々の暮らしの一部を紹介した。中世陶器が生産された会津若松市大戸窯跡出土資料、地鎮遺構が検出された喜多方市高堂太遺跡出土資料を中心に展示した。

⑤蘆名氏の二つの山城

蘆名氏に関連する山城として、史料にも確認される会津美里町向羽黒山城跡、北塩原村柏木城跡をそれぞれの城館跡の出土資料とともに紹介した。

また、向羽黒山城跡についてはジオラマを製作し、山城に対して具体的なイメージを持つための助けとした。

3) 成果と反省

今回の展示では、指定文化財展ということで、関係機関の方々のご協力を得ながら、県や市町村の重要文化財指定物件や史跡から出土した考古資料の優品の数々を借用し、展示することができた。中世という当館ではあまり対象としなかった時期や内容の展示であったが、資料としては十分に見応えがあり、来館者の方々の反応

は概ね良好であった。

会津の中世史を概観することから、広く一般向けの内容とし、解説パネルは平易な文章に努め、文字の大きさや量も見やすさを考慮した。資料のほとんどが指定文化財ということもあり、資料の配置は十分な余裕を持たせた。アンケートなどから、内容に物足りなさを感じた意見もあったが、全体的な情報量としては適量と感じてもらえたようである。また、展示の補足として、解説資料等が用意できなかったことから、関係機関のご厚意で自治体が発行するリーフレット等を配布させていただいた。

当館の収蔵資料を中心に据えた展示にはならなかったが、重要文化財をまとめて展示したことから、資料の再評価及び理解のしやすさという点で一定の評価を得たものとする。今回の展示によって、ふくしまの中世史と関連資料に改めて魅力を感じたことから、機会を得て、県内の他地域を対象とした中世史の企画展も検討すべきと考える。

(5) 「戦後ふくしまの考古学2—高度経済成長期の発掘調査—」

会期：前期：令和6年1月20日(土)～3月10日(日) (開催日数58日間)

観覧者数：1,670名

1) 趣旨

令和4年に開催した企画展「戦後ふくしまの考古学」の続編で、1970年代(昭和40年代後半～50年代初頭)に実施された発掘調査を当館収蔵資料から振り返る内容とした。

1960年代以降日本は高度経済成長期を迎え、その影響は、地方においては、高速交通網の整備という形で現れた。福島県においても1970年代に東北縦貫自動車道(東北自動車道)、東北新幹線の建設が開始され、これに伴う埋蔵文化財の調査は福島県教育委員会が主体となり進められた。その調査成果と出土品については多くが当館に収蔵されており、これを紹介する展示とした。

各遺跡の説明は配布資料にまとめ、展示パネルは遺跡の調査範囲を示した地図と、調査における重要な発見や、調査方法についてなどの最低限のものにとどめた。

会期を前期・後期に分け、後期は令和6年4

月2日～5月6日の会期で一部の展示資料を変更して開催した。

2) 展示の構成と内容

①東北自動車道関連の調査

東北自動車道関連で発掘調査が実施された26遺跡のうち、17遺跡の資料を展示した。桑折町平林遺跡出土の県内最古級の旧石器時代の石器、二本松市塩沢上原A・B遺跡の縄文土器など、旧石器～平安時代の資料を順に紹介した。あわせて調査風景の写真も展示した。国見町川原遺跡では現地説明会を開催している写真を展示し、今でいう不時発見から調査を開始し、3週間程という限られた調査期間の中で、文化財の普及活動まで行っている様子を紹介した。

②東北新幹線関連の調査

東北新幹線関連で発掘調査が実施された21遺跡の中から、17遺跡の資料を展示した。

白河市泉川遺跡出土の縄文土器、福島市孫六橋遺跡出土の弥生土器、郡山市徳定遺跡出土の土師器、福島市御山千軒遺跡出土の平安時代の木製品など、縄文時代から江戸時代までの出土遺物を展示した。

また、西郷村道南遺跡は新白河駅の下にある

遺跡であり、当館近隣に居住の来館者には身近に感じられる遺跡である。出土資料の展示とともに新白河駅建設にともなって発掘調査が行われたことを写真や解説によって大きく取り上げた。さらに、その関連企画として、新白河駅のコンコースで、道南遺跡の紹介とともに当館及び本企画展をPRするパネル展を実施した。

3) 成果と反省

東北自動車道及び東北新幹線関連の遺跡の出土資料をピックアップして展示することはあったが、事業、遺跡単位でまとめて展示する機会はこれまでなかった。多くの人に遺跡が所在することやその出土資料の内容を知ってもらふ機会として、大きな成果を果たすことができた。

調査時の写真を展示したが、当時の様子を知ることができる貴重な機会になったという意見が複数あった。また、遺跡の説明会を見学している様子の写真の中に、自分が映っていて懐かしく感じたという来館者からの反応もあった。新白河駅でのパネル展は初めての試みであった。アンケートでは、来館理由を新白河駅のパネルとしているものもあり、一定の効果があつた。

課題としては、遺跡について個々の解説が欲しいという意見が複数寄せられていた。遺跡の解説は、配布資料の中で行っていたが、その点を周知しておらず、資料に気づかない来館者も多くいたと考えられ、工夫が必要であった。



戦後ふくしまの考古学2 ポスター



戦後ふくしまの考古学

「戦後ふくしまの考古学2－高度経済成長期の発掘調査－」展示資料一覧

事業名	市町村名	遺跡名	資料名	時代	点数	収蔵	事業名	市町村名	遺跡名	資料名	時代	点数	収蔵
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	台形様石器	旧石器	4	当館	東北新幹線	桑折町	二本木遺跡	磨製石斧	縄文	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	基部調整石器	旧石器	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	人面付土器	弥生	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	削器	旧石器	5	当館	東北新幹線	福島市	孫六橋遺跡	蓋	弥生	4	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	二次加工のある剥片	旧石器	5	当館	東北新幹線	福島市	孫六橋遺跡	ミニチュア土器	弥生	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	微細剥離のある剥片	旧石器	8	当館	東北新幹線	福島市	孫六橋遺跡	石器接合資料	弥生	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	剥片	旧石器	10	当館	東北新幹線	福島市	孫六橋遺跡	磨製石斧	弥生	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	石核	旧石器	7	当館	東北新幹線	福島市	孫六橋遺跡	ノミ形石器	弥生	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	両面調整石器	縄文	1	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器器台	古墳	1	当館
東北自動車道	桑折町	平林遺跡	石器様破砕礫	—	3	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器小型壺	古墳	1	当館
東北自動車道	郡山市	壇ノ腰遺跡	深鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器鉢	古墳	1	当館
東北自動車道	郡山市	壇ノ腰遺跡	有孔土器	縄文	1	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器壺	古墳	1	当館
東北自動車道	郡山市	壇ノ腰遺跡	削器	縄文	5	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器小型甕	古墳	1	当館
東北自動車道	福島市	八景腰巻遺跡	深鉢形土器	縄文	5	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器台付甕	古墳	1	当館
東北自動車道	福島市	八景腰巻遺跡	有孔土器	縄文	1	当館	東北新幹線	白河市	道南遺跡	土師器甕	古墳	1	当館
東北自動車道	福島市	八景腰巻遺跡	皿形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	治部池横穴群	須恵器フラスコ瓶	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 A 遺跡	台付浅鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	治部池横穴群	須恵器長頸瓶	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	浅鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	治部池横穴群	須恵器長頸壺	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 A 遺跡	深鉢形土器	縄文	4	当館	東北新幹線	郡山市	治部池横穴群	須恵器短頸壺	奈良	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 A 遺跡	三角柱状土製品	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	治部池横穴群	土師器鉢	奈良	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 A 遺跡	土偶	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	土師器环	古墳	2	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 A 遺跡	石棒	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	土師器鉢	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	深鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	土師器甕	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	台付土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	土師器甕	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	石製紡錘車	古墳	2	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	異形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	土製紡錘車	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	ミニチュア土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	石製模造品勾玉形	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	塩沢上原 B 遺跡	浅鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	石製模造品有孔円板	古墳	1	当館
東北自動車道	二本松市	田地ヶ岡遺跡	深鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	石製模造品白玉	古墳	3	当館
東北自動車道	二本松市	田地ヶ岡遺跡	器台	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	切子玉	古墳	2	当館
東北自動車道	二本松市	田地ヶ岡遺跡	注口土器	縄文	4	当館	東北新幹線	郡山市	徳定遺跡	管玉	古墳	2	当館
東北自動車道	国見町	川原遺跡	深鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	二本松市	矢ノ戸遺跡	土師器环	古墳	2	当館
東北自動車道	国見町	川原遺跡	壺形土器	縄文	2	当館	東北新幹線	二本松市	矢ノ戸遺跡	土師器甕	古墳	1	当館
東北自動車道	国見町	川原遺跡	単孔土器	縄文	1	当館	東北新幹線	二本松市	矢ノ戸遺跡	土師器壺	古墳	1	当館
東北自動車道	国見町	川原遺跡	注口土器	縄文	2	当館	東北新幹線	二本松市	矢ノ戸遺跡	土師器甕	古墳	1	当館
東北自動車道	福島市	大窪遺跡	深鉢形土器	縄文	2	当館	東北新幹線	二本松市	矢ノ戸遺跡	須恵器甕	奈良	1	当館
東北自動車道	福島市	大窪遺跡	耳栓	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	土師器环	奈良	4	当館
東北自動車道	福島市	大窪遺跡	土偶	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	土師器鉢	奈良	1	当館
東北自動車道	福島市	大窪遺跡	異形土製品	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	須恵器蓋	奈良	1	当館
東北自動車道	福島市	大窪遺跡	異形石器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	切目玉	奈良	1	当館
東北自動車道	白河市	七斗蒔遺跡	土師器环	古墳	7	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	土師器环	平安	1	当館
東北自動車道	白河市	七斗蒔遺跡	土師器鉢	古墳	1	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	土師器高台付环	平安	2	当館
東北自動車道	白河市	七斗蒔遺跡	土師器甕	古墳	1	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	土師器皿	平安	4	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	土師器环	古墳	4	当館	東北新幹線	郡山市	鳴神・柿内戸遺跡	墨書土器	平安	4	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	土師器甕	古墳	2	当館	東北新幹線	白河市	赤坂裏遺跡	墨書土器	平安	2	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	土師器甕	古墳	1	当館	東北新幹線	天栄村	古屋敷遺跡	刻書土器	平安	2	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	土師器环	奈良	1	当館	東北新幹線	郡山市	道場遺跡	土師器甕	奈良	1	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	土師器高环	奈良	1	当館	東北新幹線	郡山市	道場遺跡	土師器环	奈良	1	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	須恵器高台付环	奈良	1	当館	東北新幹線	郡山市	道場遺跡	土師器环	平安	1	当館
東北自動車道	白河市	下原遺跡	須恵器蓋	奈良	1	当館	東北新幹線	須賀川市	岩湖境遺跡	土師器甕	奈良・平安	1	当館
東北自動車道	矢吹町	三峰森遺跡	土師器甕	奈良	1	当館	東北新幹線	須賀川市	岩湖境遺跡	土師器环	奈良・平安	1	当館
東北自動車道	矢吹町	三峰森遺跡	土師器环	奈良	1	当館	東北新幹線	須賀川市	御所館遺跡	土師器环	平安	1	当館
東北自動車道	郡山市	出磐山遺跡	コップ形土器	奈良	1	当館	東北新幹線	須賀川市	御所館遺跡	須恵器环	平安	1	当館
東北自動車道	郡山市	出磐山遺跡	土師器环	奈良	1	当館	東北新幹線	須賀川市	御所館遺跡	須恵器甕	平安	1	当館
東北自動車道	郡山市	勝利ヶ岡遺跡	土師器甕	奈良・平安	1	当館	東北新幹線	郡山市	皆屋敷遺跡	土師器甕	平安	1	当館
東北自動車道	郡山市	勝利ヶ岡遺跡	須恵器	奈良・平安	1	当館	東北新幹線	郡山市	皆屋敷遺跡	土師器环	平安	1	当館
東北自動車道	郡山市	中欄遺跡	円面硯	奈良・平安	1	当館	東北新幹線	福島市	御山千軒遺跡	木製形代(馬形)	平安	2	当館
東北自動車道	鏡石町	林合遺跡	鍛冶羽口	平安	2	当館	東北新幹線	福島市	御山千軒遺跡	木製形代(刀形)	平安	2	当館
東北自動車道	鏡石町	二夕通り遺跡	土師器环	平安	1	当館	東北新幹線	福島市	御山千軒遺跡	桃の種	平安	3	当館
東北自動車道	鏡石町	二夕通り遺跡	鍛冶滓	平安	1	当館	東北新幹線	須賀川市	靱山遺跡	墨書板碑	室町	1	当館
東北自動車道	本宮市	金重谷地遺跡	土師器环	平安	1	当館	東北新幹線	郡山市	梅沢館跡	皿	近世	1	当館
東北自動車道	福島市	上岡・堰下遺跡	灰釉陶器皿	平安	1	当館	東北新幹線	郡山市	梅沢館跡	德利	近世	1	当館
東北新幹線	二本松市	矢ノ戸遺跡	深鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	郡山市	梅沢館跡	香炉	近世	1	当館
東北新幹線	白河市	泉川遺跡	深鉢形土器	縄文	1	当館	東北新幹線	須賀川市	靱山遺跡	礫石経	室町	7	当館
東北新幹線	桑折町	二本木遺跡	土偶	縄文	1	当館	東北新幹線	須賀川市	靱山遺跡	板碑	室町	1	当館
東北新幹線	桑折町	二本木遺跡	石棒	縄文	1	当館	東北自動車道	福島市	八景腰巻遺跡	石塔一部	鎌倉	3	当館
東北新幹線	桑折町	二本木遺跡	石鏃	縄文	5	当館	東北新幹線	郡山市	皆屋敷遺跡	石塔一部	近世か	1	当館
東北新幹線	桑折町	二本木遺跡	石匙	縄文	2	当館				総展示点数		235	

3. 講演会等

(1) 館長講演会

令和5年度の館長講演会は計5回開催した。また、第4回については、館長と石川町教育委員会角田学氏による講演と対談を実施した。なお、館長講演会の配布資料は、ホームページ上で公開した。



第4回館長講演会

(2) 文化財講演会等

企画展に関連したテーマの講座・文化財講演会、ビデオ上映会を計12回開催した。

昨年度に引き続き、U15の考古学の開催に合わせて「子ども考古学教室」と題する講座を2回開催した。

また、申し込みが定員を超過した講演会については、当日の記録映像の上映会を後日開催した。

1) 講座

①子ども考古学教室

収蔵資料展「ものづくりに学ぶ」の関連企画で、子ども向けの講座を2回行った。

1回目は、石川館長を講師とする「館長の子どもの考古学教室」とし、「土器をつくり、つかう」と題する講座を開催した。土器について、縄文土器の底部に残るあとやスス、須恵器坯のロクロ目から土器の作り方・使い方についてわかりやすく解説し、参加者には実物の土器に触れたり、観察したりしてもらった。

2回目は、「子ども考古学教室」とし、木器についての講座とした。福島県民俗学会の副会長で県立白河高等学校の教諭でもある鎌水実先生と、白河館の佐藤璃子を講師とした。木器についての伝承や、木器からみえるあとからつく



館長の考古学教室

講演会実施状況

	演 題	実施日	受講者数	
館長講演会	第1回館長講演会 「遺跡から何を掘り出すのか？」	令和5年6月3日	26名	
	第2回館長講演会 「建築学に導かれた考古学」	令和5年8月19日	22名	
	第3回館長講演会 「土の器、木の器」	令和5年9月23日	25名	
	第4回館長講演会 「石川町鳥内遺跡を語る」	令和5年12月3日	45名	
	第5回館長講演会 「石庖丁の考古学」	令和6年2月4日	19名	
文化財講演会等	講 座 館長の子どもの考古学教室「土器をつくり、つかう」	石川日出志(当館館長)	令和5年7月9日	49名
	講 座 子ども考古学教室「木器から見る作り手のワザ」	鎌水 実(県立白河高等学校) 佐藤璃子(当館職員)	令和5年8月6日	28名
	講演会 前田遺跡調査成果展関連講演会「川俣町前田遺跡の調査について」	三浦武司(福島県文化振興財団遺跡調査部)	令和5年9月18日	60名
	講演会 会津の中世関連講演会「会津の城」	飯村 均(元福島県文化振興財団)	令和5年11月25日	60名
	講演会 戦後ふくしまの考古学2関連講演会「ふくしまの旧石器研究のはじまり」	藤原妃敏(福島県考古学会会長、元福島県立博物館)	令和6年2月17日	38名
	講演会 戦後ふくしまの考古学2関連講演会「戦後ふくしまの考古学と複式炉」	日下部善己(当館運営協議会会長、元福島県教育庁)	令和6年3月2日	35名
その他	演 題	実施日	受講者数	
	ビデオ上映会 会津の中世関連講演会「会津の城」録画映像上映会	令和5年12月9日 ・10日	11名	

り方について解説をし、当館で作成した手挽きロクロを実際に体験してもらった。

2) 講演会

①前田遺跡調査成果展関連講演会

特別展「前田遺跡調査成果展」の開催に合わせ、調査・整理の担当者である福島県文化振興財団遺跡調査部三浦武司氏による講演会を開催した。

「川俣町前田遺跡の調査について」と題し、前田遺跡から出土した遺物の希少価値や現地調査の苦労などを分かりやすく解説していた。



川俣町前田遺跡の調査について

②会津の中世関連講演会

指定文化財展「会津の中世」の関連講演会として、「会津の城」と題し、元福島県文化振興財団職員の飯村均氏を講師に迎え、1時間半ほどの講演を行った。タイトルの「城」から反響が大きく、当初の募集人数の枠を広げて対応した。

講演では、展示で紹介した会津坂下町陣が峯城跡、会津美里町向羽黒山城跡など、会津地方に所在する5つの城館跡について、最新の見解を加えての解説があった。導入部分では、一般



会津の城

の方々にも理解しやすいよう配慮した城館の模式図等を用いた用語の説明をしていただいた。

講師の熱量が高く、予定していた内容すべてに触れるには十分な時間が取れなかったため、多くの熱心な聴講者から、別の機会を期待する声が上がった。

③戦後ふくしまの考古学2 関連講演会

収蔵資料展「戦後ふくしまの考古学—高度経済成長期の発掘調査—」に関連する講演会を2回開催した。

第1回は「ふくしまの旧石器研究のはじまり」と題し、福島県考古学会会長の藤原妃敏氏を講師として迎えた。日本列島において旧石器時代の存在がどのように認識されるようになったのか、福島県内における戦前から2000年代頃までの旧石器時代遺跡の調査事例と、旧石器研究の進展について解説した。

第2回は「戦後ふくしまの考古学と複式炉」と題し、白河館運営協議委員会会長の日下部善己氏を講師に迎えた。戦後の福島県の考古学においては高校生が中心になって発掘調査が行われ、その調査の中で「複式炉」が発見、命名されたこと、高度経済成長期における大規模開発事業に伴い、複式炉を伴う住居の発掘調査が増加したこと等を解説した。また、東日本地域の炉の構造を紹介し、それらと比較することで複式炉出現の歴史的意義について解説した。



戦後ふくしまの考古学と複式炉

(3) ビデオ上映会

会津の中世関連講演会「会津の城」については、申し込みが定員を超過した。このことから、講演会当日撮影した記録動画の上映会を後日2日にわたり当館講堂において開催した。

4. 体験学習・イベント

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の法令上における取り扱いが変更となったことに合わせて、体験学習における対策も緩和して対応することとした。

基本的な感染症対策（マスク着用、手指消毒）や室内の換気と道具類の消毒は継続した。体験活動室内の人数制限は、同時入室人数を2組最大4名としていたが、5月以降は撤廃し、室内を対策前の配置に戻して、席数の上限まで対応を行うこととした。

（1）いつでもできる常時体験

1）個人利用者対象メニュー

常設の体験スペースである体験活動室を中心に、個人の来館者を対象に実施しているメニューである。5年度も引き続き、「勾玉づくり」「火おこしに挑戦」「月替わりメニュー」を通年で提供した。

「勾玉づくり」は毎日実施とした。コロナ禍では時間制で実施していたが、常時体験活動室

個人利用者対象メニュー実施状況

実施期間	内容（体験料）	参加人数
4/1～5/7	あじろ編み缶バッチ（150円）	269名
4/29～5/31	刀子形石製模造品づくり（200円）	267名
6/1～7/14	ミニミニ土器づくり（200円）	71名
7/15～8/31	墨流しうちわづくり（250円）	292名
	土偶おかおブローチづくり（100円）	452名
9/1～9/30	四つ目編み体験（100円）	61名
10/1～10/31	土器の文様ランプシェード（100円）	112名
11/1～11/30	ミニぞうりづくり（150円）	63名
12/1～12/27	お正月飾りづくり（200円）	72名
1/5～1/31	凧づくり（200円）	77名
12/1～3/3	縄文マグネットづくり（100円）	132名
2/1～3/3	ふくしまのおひなさまをつくろう（100円）	72名
3/1～3/31	ミニミニ土器づくり（200円）	130名
季節実施メニュー	まほろんクイズラリー（春）4・5・6月（無料）	432名
	まほろんクイズラリー（夏）7・8・9月（無料）	468名
	まほろんクイズラリー（秋）10・11・12月（無料）	634名
	まほろんクイズラリー（冬）1・2・3月（無料）	275名
通年実施メニュー	勾玉づくり（350円）	1,318名
	火おこしに挑戦（無料）	1,169名
合計		6,366名

内で対応するようにした。「火おこしに挑戦」は土日祝休日限定とした。前年度は1名ずつの入替え制としていたが、1組2～3人ごとの対応に変更し、家族ごとに体験できるようにした。体験場所は体験広場南口のテラスとした。

「まほろんクイズラリー」は、展示に係る問題を解きながら屋内外を巡るメニューで、3か月ごとの春夏秋冬の4回出題内容を変えて実施した。正面玄関入口に回答用紙、プロムナードギャラリー中央に解答と特典シールを置き、職員との接触なしで参加できるようにしている。

月替わりメニューは、収蔵資料や季節の行事に関連させた有料メニューを実施した。無料メニューは持ちかえりができるペーパークラフト類を提供した。

実施した有料メニューは、新規企画のほか、感染症対策前に実施していたメニューのリニューアルなども行った。数年ぶりに実施したミニミニ土器づくりは、はにわ粘土を使用し、小型の縄文土器づくりが体験できるメニューである。心材としてプラスチックコップを使用して輪積みを行い、成形がより簡単になるよう変更した。手軽に土器づくりが体験できることから、とても好評で、6月・7月と3月の3ヶ月実施して体験者数は合計で200名を超えた。また、3月の実施の際は、収蔵品のうち報告書未掲載である土器片を参加者に触れられるようにし、土器づくりの参考にしてもらった。

5月には、白河市建鉾山祭祀遺跡出土品をモデルに「刀子形石製模造品づくり」を行った。まほろんの収蔵品ではないため、白河市歴史民俗資料館において製作技法等の調査を行いメニューの準備を行った。2月実施の「ふくしまのおひなさまをつくろう」では、福島県の只見川



ミニミニ土器づくり

流域に現在も残る「雛流し」で用いられる雛人形を参考にした。準備に際しては、福島県立博物館の協力を得、民俗担当の山口拓学芸員へ取材を行ったほか、体験活動室において同館所蔵の只見川の雛流しの映像を上映するなどした。

個人利用者対象メニューの内容と体験者数は別表のとおりである。人数制限を撤廃した結果、体験者数が増加した1年となった。令和3年度の体験者数1,870名、令和4年度は3,708名、令和5年度は6,366名である。

2) 団体利用者対象メニュー

事前予約の必要な団体利用者向けの体験メニューとして、前年度は「勾玉づくり」「昔の道具を知ろう」の2種類を用意したが、それに加えて今年度は「縄文マグネットづくり」「グループ学習」を用意した。

縄文マグネットづくりは、はにわ粘土を四角く成形し、マグネットを埋め込み、縄文土器の文様をつける体験である。低学年や勾玉づくりが難しい方、少ない時間で体験をしたい団体利用者に受け、需要が多かった体験である。

グループ学習は、以前も実施していたもので、小学校高学年向けのメニューである。クラスを数グループに分け、グループごとに様々な時代の土器片を観察し、意見を出し合い、発表するメニューである。歴史の授業で来館した小学校6学年やしっかり歴史について教えたいという小学校の先生が選ぶメニューである。

(2) 募集型体験学習

1) 実技講座

考古資料や福島県内を中心とした伝統文化に関連した「モノづくり」を通して、原始・古代の技術を追体験することを目的とした、事前申込制の個人向けの体験講座である。令和5年度は6講座を実施した。

企画展「U-15の考古学」に関連して小・中学生を対象としたU-15実技講座「土器づくり」「土偶づくり」を企画し、当館収蔵の考古資料を活用した講座を行った。特に土偶づくりについては、調査研究で実施したX線CTの結果も加味した講座とした。参加者は実際に本物の土器や土偶を観察しながら製作することができた。その他、前年度から引き続き外部講師を招聘しての「大堀相馬焼に挑戦」、縄文時

代の編み組み製品をモデルにした網代編みのかごを製作した「編みかごづくり」、当館収蔵の土師器をモデルとして製作した「土師器づくり」を実施した。

また、令和3年度からコロナ禍での需要を期待して開始したネット配信での「おうちでできる土器づくり」を引き続き提供した。前年度と同様、通年で開催した。参加者数が28名と前年度の参加者数(54名)に比べ減少したが、野焼きを実施し、見学してもらう機会をつくることにより自宅で作るだけでなく、焼成時の匂いや温度などを体感してもらう機会が提供できた。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
大堀相馬焼に挑戦①ろくろ体験	令5.5.28	8名
大堀相馬焼に挑戦②墨入れ・手びねり体験	令5.6.25	8名
U-15実技講座「土器づくり」	令5.7.22-23	32名
U-15実技講座「土偶づくり」	令5.8.19-20	29名
「編みかごづくり」	令5.10.9	7名
土師器づくり①成形・調整	令6.1.27-28、 30-31	13名
土師器づくり②野焼き	令6.3.19	中止
おうちで土器づくり		28名
おうちで土器づくり(野焼き)	令6.2.18	6名
	合計	131名

2) まほろん森の塾

「まほろん森の塾」は、小・中学生を募集対象として実施する通年型の体験学習講座である。昔のくらしや技術を体験することにより、歴史をわかりやすく、親しみやすく学習することを目的にしている。開館から続く講座で、令和5年度は23期生として塾生を迎えることができた。

前回に引き続き、今回も文化財に関心を持ってもらい、将来の文化財の担い手を育成するという観点から、〈街道〉をテーマとして取り上げ、フィールドワークを中心とする全5回の講座とした。初回は前年度学んだ街道の成り立ちをふりかえり、白河市に所在する国史跡に指定される二つの城について学んだ。その後、火おこし体験と小豆の種まきを行った。第2回では国指定史跡白川城跡を見学、まほろんボランティアの解説を聞いた。また、「館長の子ども考古学教室」に参加し、土器を手に取り観察しながら、館長の講話を聴講した。第3回は今に伝

わる季節行事や伝統工芸について学ぶことを目的とし、佐川だるま製造所にてだるまづくり体験を行った。紙漉きから作成しただるまはまほろん感謝デーにて展示した。第4回では小峰城下の街道巡りを目的として、中世の城郭遺構が境内に残る関川寺、結城氏ゆかりの寺院であり、県指定重要文化財を所有する大統寺の2つの古刹を見学した。大統寺では座禅体験も行った。第5回では企画展「会津の中世」の見学とフィールドワークの成果をパネルにまとめ、発表会を行った。

塾生からは「城には石垣のある城だけでなく、山城があることを知った」「だるまづくりで紙漉き体験もできて楽しかった」「座禅を組むという貴重な体験ができた」との感想があり、地元に住んでいても気づきにくいことに触れる良い機会となった。また、ボランティアや見学先の文化財の所有者、伝統技術を伝える職人など実際に地元の文化を担う人との交流から、文化財を身近に感じ、歴史への興味を深めるきっかけとなった。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入塾式、街道と2つのお城のお話	令5・6・4	12名
第2回 白川城見学	令5・7・9	11名
第3回 白河だるまづくり～紙すき体験	令5・9・3	10名
第4回 白河市内の寺町・文化財見学、 白河だるまづくり～絵付け	令5・10・29	12名
第5回 活動報告づくり	令5・12・3	12名
	合計	57名



まほろん森の塾

(3) 特別体験・イベント

1) 特別体験

ゴールデンウィークや夏休み期間は、期間限定での体験学習メニューを提供する特別体験を実施し、来館者サービスの向上を図った。

ゴールデンウィーク特別体験は、感染症対策を考慮しながら開催した。メニューは4月の月替わりメニューである「あじろ編み缶バジづくり」と5月のメニューである「刀子形石製模造品づくり」を同時に実施したことに加え、勾玉づくりと火おこしに挑戦の毎日実施、無料のお持ち帰りメニューの配布、館内を徘徊するまほろん博士を見つけてクイズに答える「まほろん博士を探せ」などを行った。

夏休み特別体験は8月の盆休み期間中に開催した。メニューは8月の月替わりメニューである「墨流しうちわづくり」、「土偶のおかおブローチづくり」に加えて、勾玉づくりと火おこしに挑戦を毎日実施したほか、期間限定メニューとして館内に配置された複製品の土偶を探す「どぐうをさがそう」、無料のお持ち帰りメニューの配布などを行った。

2) イベント

今年度もまほろんのイベントとして「まほろん感謝デー」を開催した。今回は同時期に開催していた企画展「会津の中世」に合わせ、中世をテーマに構成した。メニューは、コロナ禍で見合わせていた「弓矢体験」に加え、染焼絵の具を用いた染付皿の「絵付け風体験」、「組ひもストラップづくり」、「館長の○×クイズ」などを用意した。



まほろん感謝デー

また、ふくしま海洋科学館との連携により、移動水族館「アクアラバン」を開催するとともに、特別編「きれいな川・海、そして生き物を守ろう」と題する講座を開催し、とても盛り上がる二日間となった。

前年度に続き、これに併せて「まほろんぬりえコンクール」を開催した、今回は投票期間を感謝デーに合わせ、より多くの来館者からの投票を得た。

(4) 館外体験学習事業

『おでかけまほろん』として、県内の学校や社会教育施設における体験学習を支援するための事業である。まほろんへの来館が困難であるなどの理由で申請のあった学校や諸施設に対して、白河館職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き、文化財や地域の歴史に対する理解を深めることを目的としている。

体験活動の内容は、実施校・施設で事前に担当者と打合せを行い、「土器や石器を観察しよう」を必須として、活動内容によって「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」の他、「弓矢体験」などを加えて実施した。



おでかけまほろん



おでかけまほろん

おでかけまほろん実施状況

No.	学校名	学年・科目	体験内容	実施日	参加人数
1	伊達市立粟野小学校	小6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	5月18日(木)	10名
2	南会津町立南郷小学校	小5・6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	5月25日(木)	30名
3	湯川村立勝常小学校	小5・6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	6月8日(木)	23名
4	福島県立会津支援学校竹田校	中2・3、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、黒曜石を使ってみよう	6月8日(木)	2名
5	猪苗代町立翁島小学校	小5・6、社会科	土器石器観察、縄文時代の暮らしについて、火おこし体験	6月15日(木)	22名
6	福島市立下川崎小学校	小5・6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	6月22日(木)	22名
7	相馬市LVMH子どもアート・メゾン	小4~6、生涯学習	土器石器観察、相馬市の遺跡について、勾玉づくり	7月30日(日)	16名
8	二本松市立旭小学校	小1~6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	9月14日(木)	18名
9	二本松市立新殿小学校	小5・6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	9月14日(木)	10名
10	いわき市立御厩小学校	小6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	9月28日(木)	41名
11	郡山市立御代田小学校	小6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり、火おこし体験	10月5日(木)	10名
12	鏡石町立第二小学校	小6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	10月12日(木)	26名
13	小野町立小野小学校	小6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験	10月26日(木)	75名
14	福島県立平支援学校	高1~3、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	11月9日(木)	10名
15	福島県立郡山支援学校	小6、生活科	土器石器観察、米づくりについて、ミニチュア埴輪・土偶の顔づくり	11月16日(木)	4名
		小4~6、総合的学習	土器石器観察、縄文時代の暮らしについて、ミニチュア埴輪づくり、火おこし体験	11月16日(木)	6名
16	二本松市安達公民館	小1~6、生涯学習	土器石器観察、公民館周辺の遺跡について、勾玉づくり	11月19日(日)	40名
17	会津美里町立新鶴小学校	小6、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	11月30日(木)	27名
18	福島県立聴覚支援学校会津校	小2~5、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、勾玉づくり	11月30日(木)	4名
19	福島県立石川支援学校たまかわ校	中3、社会科	土器石器観察、学校周辺の遺跡について、火おこし体験、弓矢体験	12月7日(木)	6名
				合計	402名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

令和5年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は34,925件であった（前年度：33,413件）。なお平成13年（2001年）7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、96万件を超えている。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	3,719	929,607
5月	2,948	932,555
6月	3,374	935,929
7月	3,374	939,303
8月	3,413	942,716
9月	3,133	945,849
10月	2,914	948,763
11月	3,290	952,053
12月	1,959	954,012
1月	2,070	956,082
2月	2,275	958,357
3月	2,456	960,813
総計	34,925	

2. データベースによる情報提供

◆全国遺跡報告総覧

埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できる「全国遺跡報告総覧」に福島県教育委員会が刊行した文化財調査報告書、福島県文化財センター白河館の刊行物等を掲載している。令和6年3月31日時点で、文化財調査報告書189件、白河館の刊行物等185件のファイルを公開している。

3. SNSによる情報発信

令和2年度から、SNSの運用を正式に開始した。運用しているSNSは、「Instagram」、「YouTube」の2つである。

◆Instagram

毎週水曜日・土曜日の2回の更新を基本として運用している。記事は職員の輪番制で作成し、展示や講演会、体験活動の様子を公開している。令和6年3月31日時点でのフォロワー数は1,115名である。

◆YouTube

企画展関連動画を中心に発信している。令和6年3月31日時点でのチャンネル登録者数は

114名、動画の再生回数は8,840回である。

4. まほろん通信の発行

令和5年度は年4回発行した。発行日は、4月19日・7月12日・10月18日・1月24日である。各4,000部を発行し、遺跡報告総覧にも掲載した。概要は以下のとおりである。

（1）まほろん通信Vol.87（春号4月19日発行）

- ・まほろん実技講座ラインナップ発表！
- ・福島県内施設紹介 にほんまつ城報館
- ・シリーズまほろんおしごと紹介 Part 4（最終回）保存科学

（2）まほろん通信Vol.88（夏号7月12日発行）

- ・企画展紹介「ものづくりに学ぶ」～U15の考古学～
- ・入館者60万人達成！！
- ・レポート まほろんゴールデンウィーク特別体験
- ・ようこそ！まほろん 新収蔵資料&遺跡紹介「小和瀬遺跡」

（3）まほろん通信Vol.89（秋号10月18日発行）

- ・レポート 夏のイベントをふりかえるまほろんのあつ～い夏2023
- ・みどころ紹介 令和5年企画展「会津の中世」
- ・新収蔵資料紹介「銅谷迫遺跡・後迫B遺跡」
- ・Check it out! 秋冬の行事案内

（4）まほろん通信Vol.90（冬号1月24日発行）

- ・プレイバック「まほろん感謝デー」
- ・「まほろん森の塾」活動報告
- ・企画展みどころ紹介「戦後ふくしまの考古学2」

6 文化財に関する研修及び技術支援

1. 概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための研修を行った。

令和5年度は、基礎研修2回と専門研修2回の計4回開催した。基礎研修は、災害と文化財保存行政に関する文化財保護行政実務者研修、埋蔵文化財発掘調査の監理・監督に関する埋蔵文化財発掘調査研修を実施した。なお、文化財保護行政実務者研修は「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議と共催し、オ

ンライン併用で開催した。

専門研修は、文化財関連施設等の整備の取り組みや、地域の歴史文化遺産の保存・活用に関する文化財保護指導者研修、博物館等の展示環境に関する専門技術研修を実施した。なお、専門技術研修は福島県博物館連絡協議会と共催し開催した。

その他に、市町村からの求めに応じて、館内外で臨時的に開催する特別研修を実施した。

技術支援として、市町村の文化財担当職員等を対象として、当館職員を現地に派遣して文化財の保存に関する指導や助言を実施した。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

基礎研修として、市町村等の文化財担当職員を対象に文化財の保護・活用、活用に向けた調査をテーマとし、事例報告と文化財の保護・活用に向けた意見交換を行った。

ア「文化財保護行政実務者研修」

地震や大雨等の自然災害に対応する文化財保護行政のあり方について研修を行った。

本研修では、災害対応の実例について独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター建石徹氏、福島県教育庁轡田克史氏、伊達市教育委員会齋藤知美氏、白河館山元出による報告を行った。

イ「埋蔵文化財発掘調査研修」

本研修は、埋蔵文化財発掘調査の監理・監督をテーマとし、福島県教育庁岡部睦美氏により



文化財保護行政実務者研修

具体的な事例を交えながら、民間調査組織を導入した場合に地方公共団体が取り組むべき事項に関する講義を行った。

(2) 専門研修

ア「文化財保護指導者研修会」

市町村の文化財保護審議委員等を対象とした研修会で、令和5年度は二本松市を会場とした。

1日目は、福島県教育庁紺野修氏により「福島県の文化財（建築物）行政」、二本松市教育委員会吉田陽一氏による「二本松城跡の史跡整備と情報発信について」、福島県立博物館高橋充氏による「中近世の二本松城について」の講義を行った。

2日目は、にほんまつ城報館の展示施設及び収蔵施設等の視察、国指定史跡「二本松城跡」の見学を行った。

文化財研修実施状況

区分	研修名	講師等	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護行政実務者研修	建石 徹 (独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター) 轡田克史 (福島県教育庁) 齋藤知美 (伊達市教育委員会) 山元 出 (白河館職員)	令和5年7月14日	53名	白河館 オンライン併用
	埋蔵文化財発掘調査研修	岡部睦美 (福島県教育庁)	令和6年2月3日	11名	白河館
専門研修	文化財保護指導者研修会	紺野 修 (福島県教育庁) 吉田陽一 (二本松市教育委員会) 高橋 充 (福島県立博物館)	令和5年10月19日 20日	延べ 138名	二本松市
	専門技術研修	木下史青 (東京国立博物館) 山口 弘 (福島県立博物館) 勝川若奈 (白河館職員)	令和5年12月8日	20名	白河館
特別研修	臨時館外研修 「矢吹町民講座やぶき寺子屋」	菅原祥夫 (白河館職員)	令和5年8月19日	15名	矢吹町KOKOTTO
	臨時館外研修 「県立白河旭高校総合的探求の時間」	井 憲治 (白河館職員)	令和5年9月15日	15名	白河市白河旭高校
	臨時館内研修「湯川村れきし探訪 桜町遺跡の調査成果について」	福田秀生 (白河館職員)	令和5年10月3日	6名	白河館



文化財保護指導者研修会

「専門技術研修」

博物館等の展示方法・環境に関する情報を提供する研修を行った。

本研修では照明・展示方法・展示環境について、東京国立博物館木下史青氏による「ミュージアム ライティングー《美術館・博物館の照明技術指針》(照明学会2019)より」、福島県立博物館山口拓氏による「民俗資料の展示とそのコンセプト」、白河館勝川若奈「福島文化財センター白河館の木質・金属遺物の展示環境」などの講義・報告を行った。

(3) 特別研修

特別研修は、臨時館内研修として1回、臨時館外研修として2回実施した。2町村及び1校から講座講師の要請があり、これに応じた。

3. 技術支援状況

市町村の文化財担当職員を対象とした技術支援を3自治体計4回行った。

このうち1件は、「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」に基づく支援要請による被災文化財への技術支援である。その他、

技術支援実施状況

内容	実施日
文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定に基づく支援要請 (伊達市)	令5.6.26・27
脆弱遺物の取り扱いに関する指導 (福島市)	令5.8.23
出土品の分析(郡山市)	令5.10.17～ 令6.2.27
未指定文化財の保管環境に関する助言 (福島市)	令5.11.17

出土資料の付着物の成分分析や資料の保管環境についての助言、発掘現場における脆弱遺物の取り上げについての助言などを行った。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 文化財の調査

白河館に収蔵されている金属製品、木製品、土器、土製品等について、X線CT等による詳細観察と理化学的分析を実施する事業である。

令和5年度は昨年度に引き続き、四合内B遺跡出土小仏像や筑内古墳群出土耳環、早稲田古墳群出土鏝ほかのX線CT透過撮影による構造調査を実施した。

2. 体験学習等における試み

「土偶の日(10月9日)」に合わせたイベントとして「X線CTで調べたまほろんの土偶たち」を開催し、来館者が土偶のX線CT画像を自由に閲覧できるものとした。本イベント内ではX線CT画像を用いた土偶の解説会も行った。また、福島県ハイテクプラザ主催のイベント「あつまれっ!ハイテクプラザ」に出展し、土偶の構造調査に関する展示とX線CT画像の公開を行った。

その他、墨染めや流し雛など考古学や民俗学等の成果を加味した体験学習メニューを考案して実施した。

3. 文化財等に関する情報収集

(1) 研修会等への参加

日本博物館協会主催の研修会等において最新の情報収集を行った。

(2) アンケート調査の実施

市町村文化財行政の現状と課題を把握するため、文化財研修の出欠確認と併せ、アンケート調査を行った。

4. 研究紀要

「レプリカ法による福島県前田遺跡出土の縄文土器圧痕の同定」等を収録した『研究紀要22』を500部作成して関係機関に送付し、ホームページで公開した。

8 出土文化財の保存処理

令和5年度は、福島県教育委員会が実施した発掘調査により出土した木質・金属質遺物等について、劣化防止等業務および保存処理業務を実施した。

1. 劣化防止等業務

次の方法により、386件の劣化防止措置を行った。

(1) 木質遺物

307件の劣化防止措置を行った。

水浸保存を図っている木質遺物（以下、水浸け遺物）は、劣化状態等の確認を行い、バクテリア等の劣化を促進させる付着物が発生している遺物については、筆等による除去及び洗浄を行った。洗浄を終えた水浸け遺物は、新たな保存液を入れなおし、可能な限り脱気した状態で封入した。

また、水浸け遺物の劣化状態を客観的に把握するため、推定含水率を測定した。

(2) 金属質遺物

77件の劣化防止措置を行った。

脱酸素剤封入済みの金属遺物について、遺物の形状変化及び無酸素状態指示剤の変色度合いの確認を行った。無酸素状態指示剤に青色の変色が確認された遺物は、脱酸素剤及び無酸素状態指示剤を交換した。

その他、腐食（錆）の進行の要因となる付着物（土壌や錆）を除去するクリーニング作業を行った。

(3) 動植物遺存体

木質遺物と同様の判断基準に従い2件の劣化防止措置を行った。

劣化状態及び現有数の再確認作業を行い、その結果をもとに台帳整理を行った。

劣化防止措置実施状況

劣化防止数	
386件	
内訳 木質遺物	307件
金属質遺物	77件
その他（動植物遺存体）	2件

2. 保存処理業務

103件の保存処理を行った。このうち、白河館の施設・設備で処理を行うことが困難な8点（師山遺跡出土木質遺物2点、高木遺跡ほか出土金属質遺物6点）については専門業者に委託した。その他の95点（屋敷遺跡ほか出土木質遺物51点、師山遺跡ほか出土金属質遺物44点）については、以下の手順により白河館内で保存処理を行った。

(1) 木質遺物

木質遺物の保存処理は、その資料の樹種、状態、器種等によって処理方法を変える必要がある。そのため、ポリエチレングリコール含浸法と凍結真空乾燥法で処理可能な資料を選択している。

ポリエチレングリコール含浸法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤取り上げ・固化⑥表面処理⑦記録作成の工程で行う。

凍結真空乾燥法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤予備凍結・真空乾燥⑥表面処理⑦記録作成の工程で行う。

なお、令和5年度は真空凍結乾燥法による木質遺物の保存処理は行わなかった。

(2) 金属質遺物

金属質遺物は全て青銅製であったため、①事前調査②クリーニング③安定化処理④記録作成の工程で保存処理を行った。

事前調査では遺物の現状確認のほか、X線透過撮影による構造等調査、蛍光X線分析による定性分析等を行った。

保存処理業務実施状況

保存処理数	
103件	
内訳 木質遺物	53件
金属質遺物	50件

3. 分類・データベース入力業務

データベースの入力および分類業務は、報告書未掲載の鉄製品及び木製品についての分類データベースを600件入力した。

9 ボランティア活動の支援

1. 募集

令和5年度は、ボランティアの申し込み資格を①令和5年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動ができる方として募集した。

2. 登録

ボランティアの名称は『まほろんボランティア』とし、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。令和5年度のボランティア登録者数は35名である。

まほろんボランティア登録状況

令和5年度登録者数	35名
内訳	
1. 最年少	17歳
2. 最年長	85歳
3. 平均年齢	58歳
(令和6年3月31日現在)	

3. 活動内容

屋内展示・野外展示の案内・解説、展示業務への参加、イベントの自主企画及び運営、体験学習器材の製作等、野外展示施設の火焚き燻蒸、野外樹木の剪定等を行った。

このほか、企画展・コーナー展等に関連した研修会を5回実施した。

4. 支援体制

白河館では学芸課にボランティア担当職員を配置し、活動内容の調整を行うとともに、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、



まほろん感謝デーの弓矢体験補助

ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。また、令和5年度は「まほろんボランティア連絡会」を4回開催し、ボランティア活動の意見交換を行った。

10 その他

1. 年報の発行

令和4年度の館の管理運営実績をまとめた『年報～令和4年度実績～』を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

2. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を開催した。

なお、令和5年度の委員6名は次のとおり。

- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・柳沼 賢治：福島大学客員教授、再任
- ・根本 純子：白河市建設部文化財課長、再任
- ・小野 保：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任
- ・渡辺 紀子：しらかわ市民活動支援理事
- ・渡邊 泰昌：西白河小中学校長連合協議会長

(1) 第1回運営協議会

開催日：令和5年10月14日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和4年度白河館の事業実績について
- ・令和5年度白河館事業計画について
- ・令和5年度上期の白河館の運営状況について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

開催日：令和6年3月9日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和5年度白河館の運営状況について
- ・平成6年度白河館の事業について
- ・その他

3. 実習生等の受け入れ

(1) 学芸員博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象に、館内において博物館実習

を行った。県内外の大学生8名を受け入れ、実習期間は8月29日(火)～9月2日(土)の5日間である。

実習では資料の取扱い方法をはじめ、当館の資料及び展示室を用いた展示実習を行った。展示実習は、実習生自身がテーマ設定、解説パネルの作成、資料の展示作業など実際の展示制作を行い、その過程を学んだ。

展示実習の成果は常設展示室において、博物館実習生によるコーナー展『新収蔵資料紹介 浪江町鹿屋敷遺跡・赤坂D遺跡』と題し、令和5年9月2日～令和6年4月10日まで展示した。



博物館実習

(2) 産業現場実習

高等学校の勤労体験学習の一環として実施されている実習について、令和5年6月6日(火)～9日(金)に福島県立白河実業高等学校より4名の生徒を受け入れた。実習内容として、野外展示の整備補助や体験活動の準備、資料保管業務補助等を行った。

(3) 職場体験

中学校におけるキャリア教育の一環として実施される職場体験について、令和5年7月12日(水)・13日(木)に白河市の白河中央中学校・白河南中学校の2校より8名を受け入れた。

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害による避難指示区域内にあたる大

熊町と双葉町の資料館等から白河館仮保管施設に移送された文化財について、資料の修理安定化、データベース入力、応急的劣化防止作業などを実施した。

5. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

(1) まほろん移動展の実施

1) 「U-15の考古学」

内容：令和4年度に実施した同名の企画展の縄文時代・弥生時代コーナーをダイジェスト的に展示した。

会期：令和5年6月3日(土)～7月5日(水)

場所：福島県立図書館

観覧者数：16,284名

2) 「古代ふくしまの開発－矢吹が原を中心に－」

内容：令和4年度に実施した同名の企画展をダイジェスト的に展示した。また、会期中には町内の小中学生向けの解説会、町民を対象とした講演会を同会場で開催した。

会期：令和5年7月1日(土)～7月31日(月)

場所：矢吹町複合施設KOKOTTO

観覧者数：10,301名

解説会参加者：246名

講演会聴講者：24名



矢吹町移動展解説会

(2) ふくしま海洋科学館との連携

1) 移動水族館(アクアラバン)開催

内容：白河館でのイベント開催時に移動水族館を実施するとともに、特別講義「きれいな川と海、そして生き物を守ろう」を実施した。

実施日：令和5年11月4日(土)・11月5日(日)「まほろん感謝デー」

移動水族館観覧者数：1,129名

特別講義聴講者数：141名

(3) 館外イベントへの出展

生涯学習施設や地元機関が主催する行事に職員が出向き、収蔵資料を活用したミニ展示や体験学習を実施した。

1) 土器にdokidoki縄文プログラム

実施日：令和5年8月18日(金)

場所：ただみモノと暮らしのミュージアム

実施内容：勾玉づくり・ミニ土器づくり

参加者数：18名

2) あつまれっハイテクプラザ2023

実施日：令和5年8月19日(土)

場所：福島県ハイテクプラザ

実施内容：白河館収蔵土偶及びX線CT画像の展示

参加者数：451名



あつまれっハイテクプラザ

3) 日光国立公園なすび秋まつり 2023

実施日：令和5年11月11日(土)・12日(日)

場所：栃木県那須町那須高原ビジターセンター

実施内容：白河館収蔵資料の展示・縄文マグネットづくり

参加者数：157名

4) Out of KidZania inしらかわ2023

実施日：令和5年11月25日(土)・26日(日)

場所：新白信ビルはくしんイベントホール

実施内容：博物館学芸員の仕事体験

参加者数：37名



Out of キッズニア

(4) その他

1) 「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」に基づき、災害発生時の情報提供や技術支援などを行った。また「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」等の活動を支援した。

2) 日本博物館協会のWebサイトと月刊誌『博物館研究』に白河館に関する情報を提供した。

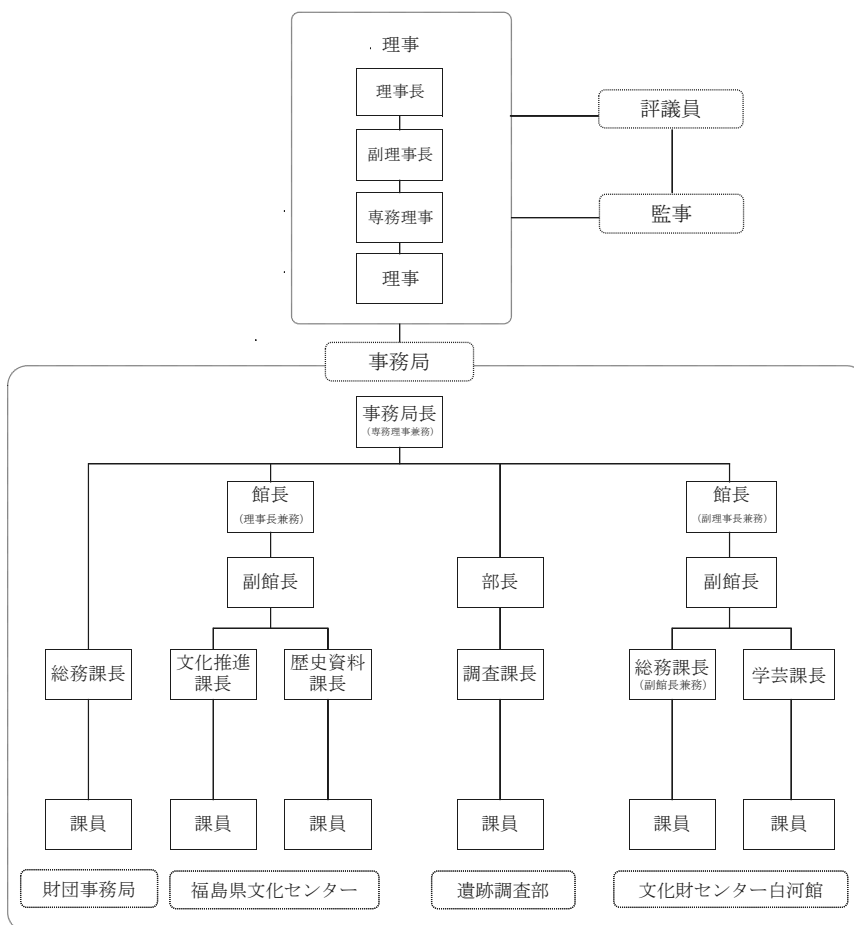
また、福島県博物館連絡協議会の理事館として、専門技術研修「博物館等の展示環境」を共催するなど県内博物館等の連携強化に努めた。

3) しらかわにぎわいプロジェクト実行委員会(事務局：楽市白河)主催の「白河の魅力再発見スタンプラリー」にデジタルスタンプスポットとして参加したほか、JR新白河駅に「戦後ふくしまの考古学2」のPRパネルを設置するなど地域関係機関等との連携により白河館の情報を発信し、観光客誘致に努めた。

4) コミュニティカフェEMANONとの協働によりワークショップを開催し、地元高校生5名と白河館利用促進について意見交換を行った。

第3章 令和5年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職名	氏名	職名	氏名
館長	石川 日出志	学芸課	主任学芸員 鶴見 諒平
副館長	鈴木 秀明		学芸員 勝川 若奈
総務課	課長(兼務) 鈴木 秀明		学芸員 河西 久子
	主任主査 佐藤 憲夫		学芸員 佐藤 璃子
	主事 松林 玲美		学芸員 菅原 祥夫
	臨時職員 佐々木 実恵		学芸員 和知 千紘
	臨時職員 松本 夏樹		学芸員 岸浪 文香
	臨時職員 金子 順子		学芸員 青木 愛子
学芸課	課長 井 憲治		学芸員 進藤 丈嗣
	主幹 山元 出		臨時職員 根本 裕子
	主幹 福田 秀生		臨時職員 近藤 祐二
	専門学芸員 吉野 滋夫		臨時職員 渡邊 あかり
	専門学芸員 門脇 秀典		臨時職員 山内 七海
専門学芸員 廣川 紀子	臨時職員 郷 眞知子		
職員総数 28名			

2 白河館管理運営費

(令和6年3月31日現在)

- ・ 指定管理者委託料 269,984千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理者：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

- 敷地面積：51,827.51㎡
- 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
- 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
- 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
- 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台
(うちおもいやり駐車場4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
- 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

- 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視
- 空調設備
 - ・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式

・熱源：簡易ガス(ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流(最終柵でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

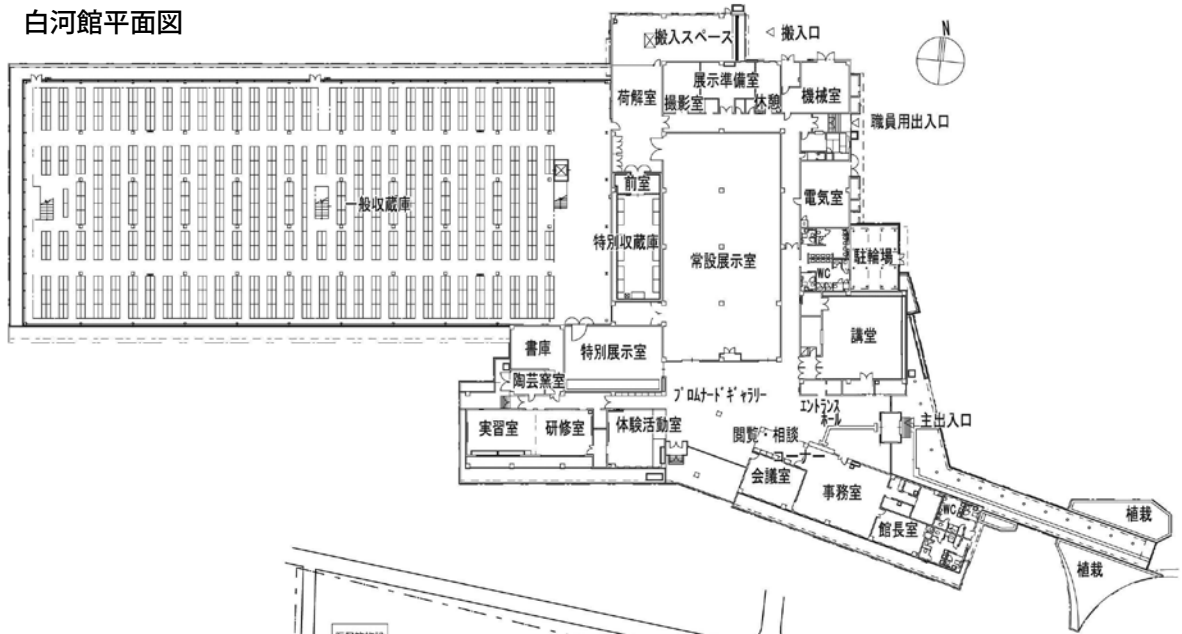
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

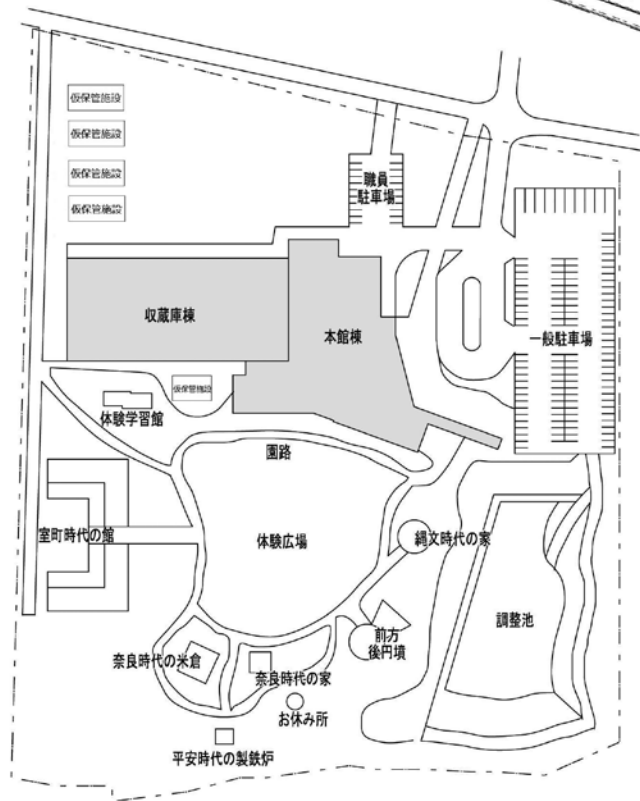
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分 2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟(194㎡×4棟+113㎡)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平成一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平成一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平成一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平成一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平成一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平成一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平成一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和三十二年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるとときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平成一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日＝平成一三年七月一五日)

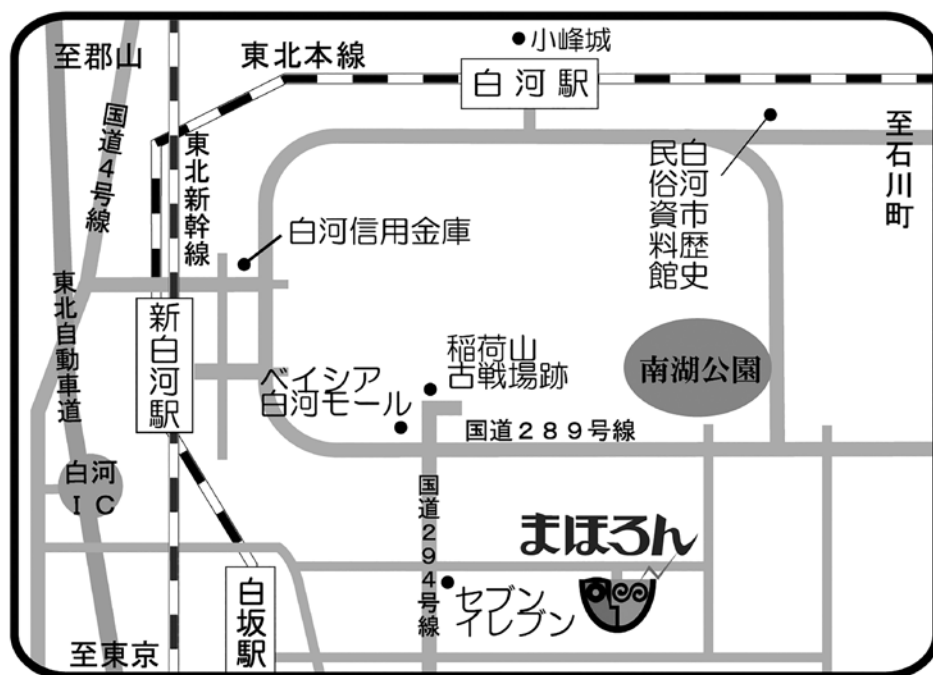
附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する

白河館の利用案内

- 開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日・振替休日の場合はその翌日）
 ・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
 ・ 年末年始（12月28日～1月4日）
- 入 館 料 ・ 無料
- 交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス（白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

- ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）南湖公園バス停下車徒歩25分
 - ・ 東北自動車道白河ICから車で20分
- そ の 他
- ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報 ～令和5年度実績～

令和6年11月29日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<https://www.fcp.or.jp/mahoron/>
